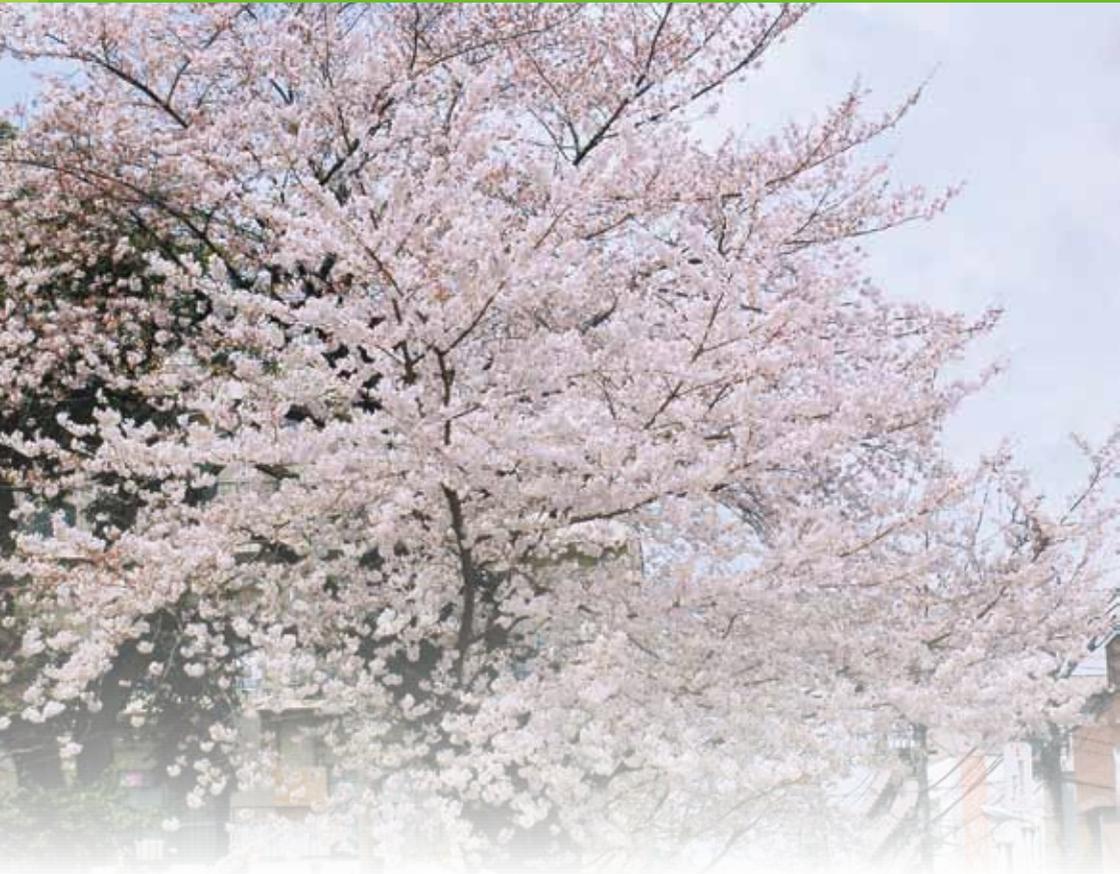


第41号

2012.5

本郷学園同窓会誌

銀友



—— 総会のお知らせ ——

日時 2012年6月16日(土) 15:00より
場所 本郷学園1号館2階会議室

<http://本郷学園同窓会.jp> & <http://www.hongo-gd.net>

写真:通学路の染井通りの桜
<新澤米次さん(高校8年生)撮影>

学園より教育振興資金へのご寄付のお願い

本郷学園同窓会の皆様には、日頃学園をご支援いただき心から感謝いたします。お蔭様で中学、高校とも、外部の皆様方から教育内容の充実した学校として年々、より高い評価を戴いております。

今後とも、建学以来の教育理念に則って社会有為の人材を育てるべく、学園あげて取り組む所存でございますので、ご支援の程、宜しく願い申し上げます。

学校の教育内容充実、施設整備などの用途を目的に寄付金を在校生の保護者、卒業生の皆様ほか個人、法人を問わず幅広く受付しておりますので、ご案内申し上げます。学校法人への寄付金は非課税扱いになっております。趣旨にご賛同いただきましたうえでご協力賜りますよう宜しく願い申し上げます。

(なお、本学園では従来から入学に際し保護者の皆様へのご寄付のお願いは特に致しておりません。)

●お申し込み方法

①学園事務室に寄付の申込書をご請求ください。

学校法人 本郷学園

〒170-0003 豊島区駒込4-11-1

電話 03-3917-1456

ファックス 03-3917-0007 担当 伊藤(事務長)

②申込書に所定事項をご記入の上、事務所へご提出ください。

③指定の銀行振込口座にご入金ください。

④入金確認後、「振込金受領書」並びに

「特定公益増進法人であることの証明書」(写し)を郵送いたします。

●税法上の寄付金控除

私立学校への寄付金は特定公益増進法人に対する寄付金として確定申告により所得税から控除されます。

なお、寄付金控除額は控除対象団体等への年間支払い寄付金の総額(年間総所得の40%以内)から2千円を差し引いた額になります。

「銀友」第41号
目次

Index

p2 本郷学園同窓会会長あいさつ

南谷 修 高校8回生（1956年〓昭和31年〓卒業）

p4 学校法人 本郷学園理事長ごあいさつ

松平 頼武

p5 報告

●「本郷デザイン科展」を開催

渡辺 有摩

高校47回生（1995年〓平成7年〓卒業）

●デザイン科全卒業生（30期）懇親会を開催

野口 貴洋

高校35回生（1983年〓昭和58年〓卒業）

p11 投稿

●「好奇心のままに―充実した余生を求めて―」

秋間 政

高校3回生（1951年〓昭和26年〓卒業）

●「続・屋久島だより」

福原 信夫

高校7回生（1955年〓昭和30年〓卒業）

●「国展」で5回連続入選―「国展会」会友に

向井 史朗

高校12回生（1960年〓昭和35年〓卒業）

●熱中した「科学部」での6年間：

「工作ができるから」迷わず入部

志村 寛久

高校61回生（2009年〓平成21年〓卒業）

●漫画劇面部と創作活動

山口 暖志朗

高校62回生（2010年〓平成22年〓卒業）

p25 同期の輪

「成人の集い」ほか

p30 トピックス

p32 OB会通信

p34 2012年度事業計画・予算案

p36 2011年度事業・決算報告

p38 2011年度表彰記録

p39 2011年度定期総会報告

山際 幸雄 高校18回生（1966年〓昭和41年〓卒業）

p41 2011年度本郷祭報告

新澤 米次 高校8回生（1956年〓昭和31年〓卒業）

p42 本郷学園同窓会役員一覧（案）

p43 学園便り

2012年大学入学試験合格実績

p44 本郷学園同窓会会則

p46 本郷学園同窓会会費納入者一覧

p53 訃報・編集後記



本郷学園同窓会
会長

南谷 修

高校8回生

1956年(昭和31年)卒業

同窓会の皆さん、平素より会の運営に多大なご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年3月の東日本大震災に伴う被害が、大きな爪跡をのこし、多くの地域の人達が悲憤感に覆われ失望のどん底から、はや一年、未だ仮設住宅で不安な日々を過ごしており、掛け声だけの復興でなかなか進まない現況。それでも国内はもとより世界中から「友情の絆」で結ばれる機会を得て、新しい希望と光を見いだしていきたいと願っている今年であります。

同窓会は母校本郷学園の発展・充実にいかに寄与することが出来るか、そして同窓生の親睦の輪をさらに大きくすることです。そのため諸事業を年間計画に入れ着実に推進していく努力をしております。

本年は本郷学園創立90周年を迎えます。次の創立100周年へ向けての着実な基礎固めとなる事業が進められております。昨年は旧機械科建屋を立て直し、新4号館として本年1月に完成いたしました。広い大集会場を1階に設けた新感覚の建屋であります。そして

本年は旧デザイン科棟を解体し、そこに地上5階地下2階建の新2号館を着工し、2年後には立派な学び舎が誕生する予定であります。地下には大講堂を持った斬新な企画によるものであります。

それに先立ち、デザイン科の同窓生(デザイン科は昭和41年〜平成10年までの30期32年間)が「学校に再登校」として、3月20日オーブンセレモニーから4月1日までデザイン科展として、この学び舎で過した多くの生徒が社会に出て、国内外多くの分野で活躍されている著名な方々も展示・トークショー・映像など他で見ることの出来ない貴重な催しでありました。

来訪された方々も四千人近くにのぼりました。このように著名な方々の作品が観られることに感動したとともに、このような著名な人達が本郷の同窓の方々であることに本当におどろかされました、との話がありました。

第30回ロンドンオリンピック大会代表選考会で北島康介さん(第53回 平成13年卒)が100米・200米で優勝しオリンピック4回

連続で出場も決めた。誠におめでたいことです。シドニーの第27回オリンピックピック大会では本郷高等学校在籍中のことであり入賞（4位）をはたしましたが、すこしのところでメダルに手がとどきませんでした。アテネ大会、北京大会で100米・200米ともに金メダルをかっくほし今回のロンドン大会で3連続2冠の期待が大きくふくらんでいます。前人未到のオリンピック4連続2種目出場そして2冠3連続の期待、本郷同窓生はもとより日本中が期待しているところです。

北島さんの言葉では「努力しつづけければ結果がついてくると信じて進めてきた」とのこと。改めて目標とそれに対する努力の大切さを感じいらされた幸いです。

「文武両道」の教育方針の基で進められるクラブ活動も活発であり、運動系・文化系をとわず地域の代表、全国レベルの大会に進出するものも多く、これらの生徒を表彰しております。今年も運動系では、スキーをはじめ3件、そして文科系では日本物理学会のJrセクションで受賞するなど7件と合計10件を表彰致しま

した。このように次々と全国レベルに進出しており、頼もしい限りであります。これらは先生方の適切な指導と生徒達が相交り切磋琢磨し合う賜物でありましょう。

同窓会誌「銀友」は1万5千部を発行し、同窓生の住所が判明している約1万3千人に発送しており、さらに在校生全員にも配布しております。

同窓生がいつまでも同期の輪を保ち続けるために、大学生になり、皆がばらばらになり、住所も変更し、わからなくなってしまうことがあるので、卒業2年後の成人式を迎える時の5月に「成人の集い」を催して、今年で5回目となります。旧交を温め次を約し、さらなる絆として定着してきております。

還暦会は同様に60歳を機として本郷時代を思いおこしながら旧交を深めてもらう会があります。これも4回となり、活発になっております。

多くの卒業生に声を掛けあつてさらなる発展とともに、皆様のご健勝と活躍を祈念申し上げます。



学校法人 本郷学園
理事長

松平 頼武

同窓会の皆様には日頃学校のことを思い、多くのご指導、ご支援を頂いておりますこと、誠に有り難うございます。

昨年、平成23年3月は東日本大震災のために、高校の卒業式が出来ず、卒業生諸君にはほんとうに気の毒なことをしました。

今年は3月15日に、310名の卒業生が厳肅な雰囲気の中で卒業式を執り行い、無事に同窓会の仲間入りを果たしました。今後ともよろしくご指導いただきますようお願い申し上げます。

卒業生の大学への入試結果もすこぶる良好で有りました。

今年は、本校は創立90周年を迎えます。大正12年4月1日に本郷中学校の第一期生が入学式を行いました。

本年は、

(1) 4月27日には、全生徒対象で記念講演会を致しました。

(2) 記念事業としては、旧デザイン科棟の建て替えを、平成24年4月から平成26年3月の工期で行うことにしています。

これは、本郷100年に向けての基礎固めと考えています。

この新館建て替えに先立ち、教室確保のために、旧機械科建屋の改築を平成24年1月で完成

しました。ぜひ、お立ち寄り下さい。

旧デザイン科棟を取り壊すに当たっては、30年間のデザイン科卒業生の皆様が「学校に再登校」して、デザイン科展を3月20日から4月1日まで華やかに開いて下さいました。

これは、多くのジャンルの、国内はもとより世界で活躍されている方々が、一堂に作品を持ち寄つての展示と、トークショウもあり、たいへんに価値のある催しでありました。また同時に、同窓生の絆の強さを示していただいたと有り難く思っています。

同窓会には、昨年も学外で活躍した生徒への表彰、そして学校に対して種々ご援助を頂き感謝しております。

学校は、4月には中学高校とも新入生が入り、新たな活気に溢れています。教職員共々、新たな気持ちで後輩達の訓育に務めてまいります。

尚この度は、同窓生の北島康介さんが水泳で4大会連続の五輪出場を決めてくれました。嬉しい限りです。

同窓会の皆様におかれましては、本年も本校のためになにとぞよろしくご指導、ご支援を頂ければ幸いです。

同窓会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝と、ご活躍を祈念申し上げます。



渡辺 有摩

本郷デザイン科展代表

高校47回生

1995年(平成7年)卒業

～本郷デザイン科展を開催～

デザイン科卒業生、再登校 作品持ち寄り思い出の校舎で

3月20日～4月1日まで本郷学園2号館(旧デザイン科棟)にて、デザイン科卒業生が一堂に会す「本郷デザイン科展」を開催しました。

本郷高校デザイン科は1966年「今後の日本社会における新しいデザイン教育、創造教育の必要性、私学としての独自性、特色をもった学校づくりを目指す」とい



オープニングセレモニー

う壮大な夢と熱意をもって創設されました。「偏差値」や「内申」によってふりかけられる高校教育界において「腕を競う」デザイン科は希有な存在の一つであり、そこに本郷高校デザイン科同窓の価値と原動力がありました。そんなデザイン科も1998年に、惜しまれつつも30年の歴史に幕を閉じました。

2012年4月に思い出の校舎が取り壊されることを知った僕と三好修先生が、『卒業生が、学園へ、先生へ、校舎へ、最後の恩返しする機会』を校舎取り壊し前

に設けることで、先輩後輩の同窓の輪と絆の交流が生まれればと企画しました。

当展は「本郷高校デザイン科OB」のみを参加条件とし、世代・立場・分野を超えて再登校した全30期の卒業生170名による、日々の活躍がわかる商業作品、趣味性の高い



建て替えられる旧デザイン科棟(2号館)

オリジナル作品、デザイン科最後の課題提出など、約220点の作品で構成されました。また、会期中は秋本治氏(こち亀)と原哲夫氏(北斗の拳)の対談、丸山敬太氏(ファッションデザイナー)の講演、早川剛氏(日本画家)のライブペインティング、小松義夫氏(自由廊)の特殊メイク



真っ白に塗り上げられた会場全体も作品

ワークシヨップ、江原啓之氏(スピリチュアリスト)の映像講演、DABO氏(ヒップホップアーティスト)のライブシヨールなど、沢山のイベントが行われ、どれもが大盛況でした。

あわせて当時のアナログな画材や絵を揃えた歴史展示を通してデザイン科の一端に触れ、「デザインを



準備にあたったスタッフたち



3600人を超える来場者

学ぶ素晴らしさ」、「自由な発想の素晴らしさ」、「若い年齢から頭と手を柔軟に使うことの大切さ」など本校の精神を感じていただき、懐古するだけではなく、未来に向かうことを当展では目指しました。

会場となった本郷学園2号館は、3月5日から3月19日の2週間をかけて、デザイン科卒業生と

漫画劇画部の現役学生たちが協力し合い、自分たちの手で創り上げました。壁面を立て付け、真っ白く塗り上げられた会場自体が校舎への感謝の気持ちであり、卒業生の作品でした。

毎日新聞、朝日新聞の紙面、Yahoo!ニュースにも大きく取り上げられたことも功を奏し、おかげさまで当展の総来場者数は3,678名となり大成功を納めました。

オープンセレモニーには芸大より龍井教授もこられ皆さん方とのコラボレーションを楽しみにしておりますとのことでした。運営委員のメンバーとして頑張ってきた努力が報いられた瞬間でもありません。この創立90周年記念による校舎建造を機に手探りで始めた企画ですが大きな絆が出来たことが大きな成果と思います。これは他の学校では無い事であり、本郷

デザイン科ならではの血脈のおかげではないかと、日々の出会いの中から感じております。卒業生たちがあらためて本郷デザイン科生徒としての誇りやつながりを再認識し、お互いのためにいつでも「再登校」できることを暗に感じていただけたのではないのでしょうか。

当展を機に、旧友との再会、仕事のパートナーの発掘、発展的なイベントの企画等、卒業生がお互いに良い刺激を与えられる関係を継続して行けることを切に願っております。

貴重な作品をご出品いただきました卒業生のかたがたに感謝いたします。

最後になりましたが、開催のためご助力いただきました学校ならびに同窓会関係各位に心からお礼申し上げます。

本郷デザイン科展ウェブサイト

<http://www.hongodesign.com>

デザイン科

全卒業生（30期）懇親会を開催



野口 貴洋

高校35回生

1983年（昭和58年）卒業

平成23年10月8日、三菱養和会スポーツセンター4Fホールにて、デザイン科OB全30期を対象に、合同の同期会を開催、デザイン科卒業生1390名弱の1割を超える、総勢162名の参加者が集まり（写真）、盛況となりました。

この会は『本郷デザイン科展』の企画を温めていたデザイン科OB有志のグループで準備を進めていく中で、展覧会の参加呼びかけの告知手段として何をするべきか検討した末に、本郷学園同窓会に相談したところ、まずは合同の同期会を開催するのが筋道とする意見に賛同し、始まりました。そのためのDMについて

は、同窓会活動の活性化の一環として取組み、同窓会名簿からのDM発送と、返信はがき等からの住所反映の還元を条件に、費用援助が実現しました。

同窓会名簿は、同窓会誌『銀友』発送用に、本郷学園同窓会が維持管理しています。これまで学年単位での同期会向けのDM発送に活用されることはあっても、今回のような学年を超えた縦のつながりでの活用は異例でした。

さらに、デザイン科OB全30期のうち、毎年、同窓会誌『銀友』を送り届けている住所判明者は約半分の約700名強、その全てが本人に直接便りが届く宛先かどうかもわかりませんでした。

同期同士でも、職場が同じだったり、なんらかのしがらみで強く結びつきがあれば別ですが、たいていは年賀状を1回やりとりして、互いの生存確認を喜ぶ程度です。私自身



も連絡網の再構築にあたっては、最初は年賀状を交換してきた数名から手さぐりで始めました。その後、本郷学園同窓会からの協力で、デザイン科OBの連絡先の提供を三好先生を通じて受け、これを基礎データとして活用しました。実際に1軒1軒電話をかけてみると、同期のご両親が電話に出ることが多く、中には時節柄、振り込め詐欺を疑われる場面もあり、苦笑しつつも、どうにかして信じてもらう努力を続けました。

その経験から、一つわかったことがあります。人生において、連絡先が途絶える時期がいくつもあり、始めは卒業から社会人のスタートを切るまでの間に、学生生活を送ったり、転居でつながりが切れてしまうケース。ただその場合でもご実家が同じ場所にあり、ご両親が健在であるうちは、なんとかつてを辿って、卒業生本人とのコンタクトまで、こぎ着けることも可能です。

私の同期は47歳前後。ご両親が70代くらいなので、ご健在であるうちは対処できる最後の機会ともなり、おかげさまで、同期の連絡先不明者は5名程度に絞り込むことができました。今回、同期の伝手を辿り、1人の仲間が、既にこの世を去ったことも知りました。再構築ができた連絡網を通じて、同期の数名と墓参を果たしました。

出欠確認用のDMは往復はがきを使用。デザインは飯田栄史君が手掛け、同窓会の協力のもと、9月2日に発送しました。

一方ではホームページ上で受付を開始、多数の応募が集まりました。全体的に人が、インターネットで見られる状況ではないにせよ、返信はがきよりも即時性の高いネットの活用に助けられた面があります。

集客の目玉を何に据えるか？ここで担ぎ出されたのが、我が恩師の唐沢政道先生です。デザイン科3期

1組では、こち亀の秋本治さんも教え子で、秋本さん伝説は語り草となっていました。実は先生ご自身のキャラクターも強烈です。茄子のシルエツトの下あごに髭が濃い風貌、ビットな言い回しに、悪事を働いた生徒への俊敏なる追跡ダッシュ、遅刻をした生徒への容赦なき伝説のケツバット、職員会議中に椅子が倒れ、それでもなお、座る姿勢のまま煙草をふかし続けていたとか、そのような男子校教師ならではの、数々の可笑しい話が満載です。

その先生も、デザイン科の廃止が決まると、後に残る先生方に惜しまれつつも、バステル画に活路を見出し、画業にご活躍されていました。しかし愛煙家でもありお酒も強い先生も、老いと病と闘う日々、我々がコンタクトを取り、懇親会へのお誘いの時期には、手術のためのご入院も控えておりましたので、無理強いもできず、着地点を定めるのが難しい状況でし

たが、毎日のようにウェブでのエントリー受付でのOBとのやりとりで、やはり先生に会いたいというメッセージが多く、これに何とか応えたいと悩み、先生に何度か相談メールを交換した結果、お住まいの近くでデザイン科15期の集まりとして、先生を囲み食事会を実現することができました。その場にデザイン科展の準備メンバーをお誘いしたわけです。

先生には、事前にビデオメッセージの撮影には触れなかったのですが、撮影直前に、私が説明を重ねるほどもなく、すぐに意図を理解して、快く撮影を受けてくださいました。カメラを回したのは真山誠君、その傍らに、デザイン科展代表の渡辺有摩君がいました。食事会には、先生に会いたがっていた江原啓之君も駆けつけてくれました。

デザイン科OB懇親会の中で、先生のビデオメッセージには大きな拍手が沸きました。それまでデザイン

科展に関心を示さなかったOB達が、熱い想いを受け止めてくれたのを感じた夜となりました。OB懇親会が終わつてからも、巢鴨駅北口界隈では、デザイン科卒業生達がお祭り騒ぎで飲み明かしました。

最後に、この誌面をお借りして、『デザイン科OB連絡会(仮称)』を提案したいと思

います。まだ存在もしておらず、私の頭の中にあるだけです。せっかく集まったタテとヨコの同窓生の輪が再び断ち切れてしまうのはとても勿体ない話です。幸い、私は本郷学園同窓会の理事として月例の運営委員会の活動にも参加しておりますので、この連

絡会とは本郷学園同窓会の下部組織と位置付け、デザイン科OB連絡網の取り纏めと、同窓会と各期への名簿還元を目的としたいと思います。ご賛同が得られるかどうかを、各期の幹事さんと相談しながら始めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



なっている。自分たちの存在が子や孫の代に負担を強いるのは本意ではない。とは言え、自ら命を絶つことは出来ない。少しでも子や孫の代に負担にならない生き方をしよう。なるべく他人の力を借りないで生きられるようにしよう。楽しい日々を過ごしたいと願っている。

特に大切なのは、脳の衰えを遅らせることであると考えている高齢者が多い。そして、自分自身のためにも、子や孫のためにも、多くの仲間たちとともに楽しみながら体を動かすことで「健康で充実感に満ちた日々を築く」ことに努めよう。これが、私たちの「赤塚史蹟を歩こう会」の目標である。

ここでは私も事務局スタッフも全てボランティアである。私の役割は、会の代表者としての対外折衝、例会のコース設定と当日の説明役である。初めのうちは区内を歩いていたが間もなく区内は殆ど歩き尽

くしてしまい、自然と都内各地や隣接県にも足を伸ばそうという話になった。そうなる事前の調査が必要になってきた。

人様を案内するからには何度も下調べに出かける。地図と首引きであちこちを訪ね歩き、路地を探して行き来する、運良く土地の古老に出会えれば得るものが大きい。半日コースを調べるのに四・五時間はかかる。今では事前の文献調査、その後の現地での取材、当該地区の教育委員会や観光課で取材をして当日の解説原稿を作成する。デスクワークの他に現地調査が最低二回、スタッフ全員での実地踏査、本番が二回、会員が多いので例会は同一コースを二班に分けて実施している。都合、最低でも一ヶ月に五回は同じコースを歩くことになる。スタッフにも三回歩いて貰っている。この他にデスクワークがあるので、殆ど毎日仕事がある。年度の変わり

目には年度総会の準備があるので現役時代と変わらない程多忙な月である。でも「余裕を持って楽しむことが許される」日々であることはありがたいし、楽しい日々である。

ここ数年は会員の好奇心も高まり、テーマを持って歩こうという声が高まってきたので、一昨年は「江戸の上水」をテーマにして玉川上水を羽村取り入れ口から四谷大木戸まで歩き、続いて昨年は江戸の四大水源池とそこから流れる神田川・善福寺川・妙正寺川・石神井川を歩いた。今年は「隅田川と水運」をテーマに岩淵水門から越中島まで訪ね歩いている。

岩淵水門の緑の芝生や赤水門の貫禄、青水門のスマートさ、隅田川の大きな蛇行と、その蛇行を利用してした江戸期からの水運、と調べれば調べるほど興味が湧いて下調べに何度も足を運ぶ。これもまた楽しい一時である。会員の中には「こん

な苦勞をなさって大変ですな」と声をかけてくれる会員も少なくはない。そんな時には決まって「根っから好きなことなので、大変な時もあるが苦勞だとか、辛いかも思ったことはない」と返事をしている。

会員も例会を楽しみにして待っていてくれる。会員のAさんは「今まで路傍の石仏を見ても何も感じなかったが、この頃はお地藏様かな、庚申塔かな、馬頭観音かな、と興味を持って見るようになった」と嬉しそうだった。



会員のBさんは「この頃、板碑と供養塔、お墓の区別がつかうようになりました」と嬉しそうだった。

「板碑の年号を見ると、その地が南朝方か北朝方かがわかりますよ」と言うと、「幾つになっても新しいことを知るの楽しいですね」と目を輝かしていた。私自身も調べでは同じように「解らなかつたことが解る」喜びを味わっている。

またこの会では、私たちは、歴史的に興味のある所を歩こう、観光地巡りは旅行業者に任せておけば

いいと申し合わせている。

箱根にバス見学をした時は、秀吉の一夜城、早雲寺、石仏群、深良水門と巡って、関所跡や大涌谷には寄らなかつた。会員たちは口々に「箱根には何回も来ているが、早雲寺以外は初めてだった」と喜んでくれた。



このようなことの積み重ねが、発足以来、十三年間も続き、会員の数が二十名から百六十名にもなり、月例会も同一コースを二回行い、通算百回、延べ百八十回近くを数え、『百回記念誌』を発刊できる原動力になったのではないか。

私たちの地元には東京大仏で知られる赤塚山乗蓮寺がある。かつて中山道板橋宿にあった名刹で、首都高建設のために赤塚に移転してきた。その乗蓮寺の境内に幾つもの石像がある。何処か見慣れた像なので由来を調べてみたら、なんと母校本郷中学の焼け跡で日頃目にしてた物だった。

昭和二十年四月三日の母校本郷中学は空襲で全焼してしまっただ。たった三日で校舎はなくなり、廻り一面の焼け野原の中、学校の西隣の屋敷跡に異国風の大き

な石像だけが幾つも残されていた。伊勢藩主藤堂高虎が朝鮮に出兵したとき持ち帰ったものといわれ、文珠菩薩・奪衣婆・役小角像など十一体あり、後に、ここに住んでいた元家老の寺村さんの屋敷内に置かれていた。昭和四十二年、板橋仲宿の乗蓮寺に譲渡され、その後、乗蓮寺が赤塚城二の丸跡に移転した時に、その石像群も赤塚へ運ばれて今も赤塚城二の丸跡の乗蓮寺境内に安置されている。

奇しくも高校卒業後、六十年ほど経って思わぬ所で再会するとは不思議な縁を感じる。これも好奇心がもたらしてくれた学ぶことの楽しさの二つかも知れない。好きな史蹟を歩きながら、他人の役に立つ喜びに満ちた日々を送っている。



続・屋久島だより

あの恐ろしい地震と津波、福島
の原発事故。それからもう一年が
たった。

テレビの中では、少しも進まな
い復興に、喧々諤々の議論を積み
重ねている。

私は小心者だから、東京の地震
や、原発事故は怖くて屋久島へ逃
げてきた。今となつては卑怯もの
と云われてもおかしくはない十七
年前の東京脱出。それにあの喧騒
な東京に飽き飽きしていた。

本郷中学から高校へ通っていた
頃から、山に登ることが好きで、
日本中の山へ登って来た。だか
ら、屋久島に来た当初は、何故こ
こに来たの？という問いには、屋
久島には九州一の高い山宮之浦岳

があり、それが日本百名山の一つ
だからと答えていた。

しかし、平成八年にここへ来て
四年目の春、隣の種子島の西之表
のすぐ近くの馬毛島という無人島
に、核のゴミを持って来るという
話が持ち上がった。

私はビックリした。折角都会か
ら逃れてきたのに、馬毛島は屋
久島からたった六十キロしか離れ
ていない。更に屋久島の電気は
100%水力発電でまかなわれて
いて、原子力発電の恩恵さえこう
むっていない。その上、世界自然
遺産の隣に核ゴミはないだろう。
さいわい近くに後にグリーンピー
スジャパンの事務局長になった、
作家の星川淳氏が住んでいた。



福原 信夫

高校7回生

1955年(昭和30年)卒業



新館

様々な情報や反対運動のノウハ
ウに通じていた。彼を中心とし
て、関心のある住民が集まって、
すぐ「核廃棄物の中間貯蔵施設を
つくらせない市町村議員、住民連
絡会」の屋久島事務局を立ち上げ
た。勿論私もすぐそれに参加し
た。賛同者はまたたく間に増えて
行った。漁業関係者、ガイドの若
者たち、婦人会の人々が、積極的

に反対署名運動に参加した。私は地域の人たちに、宿に泊まってくれた若い人たちに、チェルノブイリの原発事故の悲惨さの話しをしながら、署名運動にかけずり廻った。

そして意外に早く、町の定例議会で町長も反対表明し、近隣の市町村議会と首長、そして県議会を経て、当時の鹿児島県須賀知事が受け入れ拒否を表明してくれ、一件落着した。

その時に学習した、原発や核に関する知識や、全国各地で起きた、様々な原発反対運動の実情を知るに至り、日本の原発が如何に危険な存在であるかを痛感した。

そんな折の今回の原発事故。そして時が経過する毎に明らかになって来る、対応のまずさ、隠蔽の事実。起きてしまったから、仕方ないというレベルの話ではない。もし、あの時も少し、悪い方向へ行っていたら、東京だって危なかった。も

しもう一度事故があれば間違いなく日本は沈没するだろう。

日本の新聞や、テレビなどのマスメディアは、何も真実を伝えてこない。

ユースホステルは世界中にネットワークがあつて、それがさいわいにも広い世界の情報を伝えてくれる。しかしその反面、今回の原発事故のようなことがあると、アツと云う間に潮が引くようにお客が消えてしまう。

昨年の原発事故でも、われわれには殆ど正しい情報が与えられてこなかった中、日本では二十キロ三十キロで屋内避難とか云つてる時にアメリカは早々と国務省令で、八十キロ以内から即退去せよとの命令が下っていた。それから宿は、キャンセルの嵐。以来、今日に至る迄外国人客の客足はない。元に戻るのはいつのことだろう。困ったものだ。

NHKの原発最前線という番組の中で二十年前の歌手が、次のように歌っていた。

放射能はいらねえ

ストロンチウムはいやだ

牛乳飲みてえ

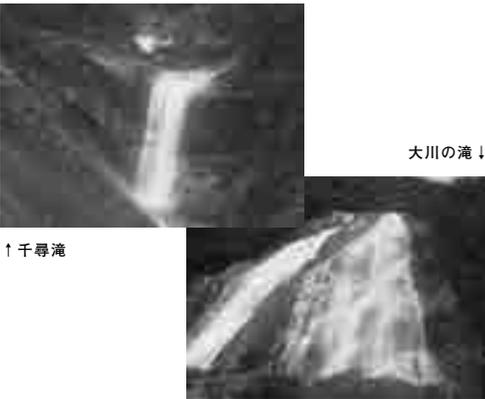
何やってんだ税金(かね)返せ

目を覚ましな

長生きしてえなあ

誠に同感である。

大川の滝↓



↑千尋滝

「国展」で5回連続入選 —「国画会」会友に



向井 史朗

高校12回生

1960年(昭和35年)卒業

本郷高校を卒業して52年になりますが、今、毎日絵を描く生活を送っております。

私は40歳の頃から、会社人生は60歳と決めていました。その後は自分のやりたい事をしようと決めています。

定年まぎわの平成13年頃になると、会社の定年が段階的に1年ずつ60歳から65歳に延びていくことになりました。これは正直、こまったなあ〴〵と思いました。

平成14年9月に60歳になりましたが、当時は東北支店長をやっており、退職することはなかなかむずかしいと思っていました。自分の意志を通そうと、平成15年3月の決算支店長会議の後、思い

切って当時の副社長に、退職をお願いしたところ、会長、社長に根回しをして頂けることになり、結果として了解を頂き、60歳7カ月で念願の退職をすることができました。

会社をやめても生活はしていかなければなりません。そのために家内にどう説明して納得してもらうかが課題でしたが、意外にあっさり、やめてもいいよということでした。

生活費は退職金と貯金と60歳から支給される年金で、なんとか目途がたちそうです。

問題は自分のやりたい事の費用をどうするかでした。そのために40歳頃から目標をたて貯金をはじめ

めました。その一つが五百円玉貯金です。五十万円たまる貯金箱を買い、自分の小銭入れに五百円玉があれば必ず貯金することにしました。これが20年間で七百万円たまりました。つまり、貯金箱は延べ14箱になったのです。

その二が、給料天引きで生命保険付きの年金です。60歳の満期で70歳まで毎月6万円を受け取る年金に入りました。

その三が、50歳から自分の小遣を節約してためた三百万円です。

合計一千万円+毎月六万円(10年間)でスタートすることになりました。

退職後のやりたい事は現役時代からいろいろ考えていました。新聞で読んだコラムの一つに、定年後ボケないで元気であるためには、囲碁、ゴルフ、絵の趣味をもつといいと書いてありました。よしこの三つを実行しようと思いま

した。

まず囲碁は、NHKの囲碁講座をみて勉強し、平成14年5月に日本棋院の二級の免状をとりました。その後、囲碁の教室にかよい平成15年9月に五段の免状をとりましたが、実力は三段ぐらいと思います。

ゴルフは現役中にもやっていたので、健康のために月に2回ぐらいゴルフ場に行っています。

絵については、本郷高校にいた時も選択で美術をとっていました。まず基本から勉強した方が上達の早道と考え、平成15年4月に、武蔵野美術大学が経営する武蔵野美術学園に入学しました。朝から夕方まで毎日絵を描き5年間かよいました。

母が脳梗塞で倒れたため、学校を止めざるをえませんでした。が、介護をしながら絵を描き続けることができました。在学中から目標

をもって絵を描くこと、そのため公募展に出した方がいいと指導され、主に国画会に応募しました。

昨年、連続5回入選し、今年会友に推薦されました。自分でもビックリしています。

現在の一日の生活は朝6時に起床。朝食後、ゴルフの打ちっ放し30分、その後駅前のマクドナルドでコーヒーを飲みながら、日経新聞を読みます。9時頃から公募展用の130号の絵を描きます。午後は三日に一度碁会所に行き、それ以外は美術館や個展をみにいきます。

夜は就寝まで小品の絵を描きます。

このような調子で一日を過ごしています。

今回、国画会の会友になりましたので、健康であるかぎり絵を描く生活を中心にして行こうと思っております。二、三年後個展を目

指し努力して行こうと思っております。その時には、ぜひ皆様にもみて頂きたいと思っております。

絵はヘタ、ウマイは関係ありません。

自分の思ったように描けば絵になります。

皆様方にもぜひポケ防止にお勧めしたいと思います。



「国展」5回目の入選作品「アトリエ IN NEW YORK」

熱中した「科学部」での6年間 「工作ができるから」迷わず入部

【科学部の紹介】

私は中学1年から高校3年までの本郷で過ごした6年間、科学部に所属していました。皆様もご存知かとは思いますが、科学部というのは主に物理分野の実験、研究を行い、本郷祭や生徒理科研究発表会など様々な舞台で発表を行っている部です。私が入部した当時は主なイベントは本郷祭のみ、人数も少数の部活だったのですが、在籍中から急速に活躍の舞台を増やし、今では数々の実績を残している人気の部活となりました。ここ数年では、日本物理学会Jr.セッションでは3年連続で計4本の研究が奨励賞を受賞し、物理チャレンジ2011において2名が奨励賞を



志村 寛久

高校61回生

2009年(平成21年)卒業

受賞、第6回「科学の芽」賞の受賞など、輝かしい成績を残しています。部員数も増えており、近年では中高合わせて30名前後が在籍しています。

また、2010年12月には新たにOB会が設立され、OB間の親睦を深めるとともに現役生をサポートする体制が整いました。既に2回の総会が開催(写真)され、今後さらに活発に活動していく予定です。

【科学部に在籍して】

私が初めて科学部と出会ったのは、本郷中学入学前に訪れた本郷祭でした。幼いころからスポーツよりも工作が好きだった私にとって、打ち込める部活動があるかどうかは学校選びの重要なポイントでした。



た。当時はまだ実験の説明の全てを理解することはできませんでしたが、手作り感のある説明用模型や実験装置の数々に興味を持ったのを覚えています。

晴れて本郷中学に入学した私は、「工作ができるから」という理由で迷わず科学部への入部を決めました。初めて部室に入ったその日にベットボトルロケットを一人で1機作らせてもらい、グラウンドで派手に飛ばすという豪華な活動から私の科学部生活はスタートしました。

科学部では、自分たちで実験の内容を決め、実験方法から実験装置まで考えます。私は、実験の方法を自分たちで考える事が活動の一番の楽しさだと感じています。教科書に載っているような手順が示された実験とは違い、目的だけを定め、あとは自由に考えるのです。決まった実験装置も無いため、必要なものは自分たちで作ります。本郷祭に発表を見に来てくれた方々に、どのように説明すれば分かりやすいかということを考え、原理を表した模型や装置も

自分たちで作っていました。このような「自分で考え、自分で作る」という活動スタイルが、私が科学部に熱中した一番の理由だと思っています。先輩・後輩と二丸になってあでもない、こうでもない議論を重ねることは科学部だからこそできる経験です。また、なにより工作好きな私は実験装置や模型作りに熱中していました。それは分かりやすい模型を作った時、部員達から好評を博し、嬉しかったというのも大きな理由です。

在籍中は、週3日の活動日が楽しくてたまらない日々でした。「学校の授業が辛くても、科学部があるから休むわけにはいかない」と思うこともあったほどの熱中ぶりです。気づけば高校3年の受験前までに活動を休んだのは2、3回だったと思います。

【Jr.セッションへの参加】

高校3年になって受験勉強が始

まり、私たちの学年も部活を休んでいたのですが、私は自己推薦制度を利用して大学に合格したため、秋頃には受験勉強が終わりました。そこで顧問の石川先生に誘っていただき、参加することになったのがJr.セッションです。

Jr.セッションとは日本物理学会が主催する、中高生を対象とした物理的内容の研究発表の大会で、初めに実験レポートを提出し選ばれた学校の生徒が日本物理学会年次大会の場で発表できるというものです。また、発表の後には表彰があり、最優秀賞1校、優秀賞、奨励賞各数校が選ばれます。

私たちはその第5回大会に、今まで科学部が5年間実験を続けてきた「くし形金属板に生じる渦電流」というテーマで応募することにしました。「くし形金属板に生じる渦電流」とは、強力な



磁石の間にアルミ板を通す際に磁場から受ける力を利用し、アルミ板に流れる渦電流の行路を特定するという実験です。私たちはくし形に切れ込みを入れたアルミ板を使用し、切れ込みと受ける力の関係を調べることで行路の特定を試みました。実験は、私と高校2年、中学2年一人ずつの計3人のメ

ンバーで取り組むこととなりました。私が今までに科学部で担当したの実験よりも原理が難しく、非常に頭を悩ませたのをよく覚えています。そして無事にレポート審査を通過して参加が決まった口頭発表当日(写真)、私はとても緊張していましたが、不安はあまりありませんでした。前日までに部員たちに協力してもらって発表練習をしたり、質問を想定したりと準備をしてきたことが自信に繋がっていたのだと思います。そして無事に発表を終え、私たちの発表は奨励賞を受賞することができました。私たちのような初参加の学校が選ばれるのは珍しいということ、とても嬉しく思ったのを覚えていきます。

このJr.セッションの初参加の話は、正直初めはあまり乗り気ではありませんでした。今まで参加した事のない実験内容だったという

こともあり、実験をやり遂げる自信が持てなかったためです。しかし、部員たちに助けてもらいながらどうにかやり遂げ、賞まで頂けた時にはとても良い経験だったと思えるようになりました。正確さを追求した実験方法、正式な実験レポートの書き方、発表の方法など学ぶことが数多くあり、これらはJr.セッションに参加したからこそ学べたことだと思っています。また、学生のうちにあれほどの大舞台で発表できたこともまたとない経験となりました。あの時私を誘ってくれた顧問の石川先生には感謝をしています。

【現在の私】

大学に入った今でも、私の一番好きな「好きなものを自分の手で作る」という事は変わっていません。私は現在、芝浦工業大学のデザイン工学部で、主にプロダクトデザイナーについて学んでいます。そのため



実験を行う機会はありませんが、作品発表の時には科学部での経験に大いに助けられています。人前が苦手な私でも自信を持って合評ができるのは、科学部で人に説明する、ということをしてきたからだと思っています。本郷祭では一日中発表をしていましたし、何よりJr.セッションという大舞台での発表経験まであります。実験結果の発表と自分の作品のプレゼンテーションでは内容は大きく異なりますが、他人にどう伝えるか、どう表現したら分かりやすいかという部分は変わりません。科学部で散々発表した経験が、大学に入ってこ

れほど役に立つとは思っていませんでした。大学ではモノづくりのスケールが大きくなり、自分の作品の商品化の機会を頂きました。『Folio』という名前のティッシュケース(写真)で、現在市販されています。大学卒業の時期が近づいていますが、将来もこのままモノづくりを続けていきたいと思っています。

【最後に】

近年の科学部は高度な実験や表彰も増えたため「勉強している部活」と思われるかもしれませんが、ただ実験の知識をつけるだけの場ではないというのが科学部の良いところだと私は思います。

「気になる物事を考え、作り、試し、相手に分かりやすいように発表する」。この全てを楽しめる事が科学部の特徴です。物理や実験が好きな人はもちろん、楽しい事を考えるのが好きな人、人に

説明をするのが好きな人、私のように工作が好きな人まで、誰でも必ず活躍の場があります。そして6学年が1つになって、遊んでいるんだか計測しているんだかわからないような雰囲気です。真面目な実験をしている——そんな部活だからこそ私も力を発揮することができたし、心に残る経験ができたのだと思います。今思えば、本当に科学部で頭がいっぱいな6年間でした。活動を通してかけがえない友達も作ることができました。同じ部活動で同じ行動をとる仲間となれば気も合うもので、末長い仲間になりそうです。現在はOB会という絶好の繋がりができ、先輩方と会う機会も、現役生の活動を知るきっかけも増えました。あつという間の6年間では物足りなかった私はこれからも科学部に関わり続けていきたいと思っています。

漫画劇画部と創作活動

「すべての創作行為の根本は、すべて同じものである。漫画・映画・小説演劇……これらのはすべて、それらに用いられる概念を抽象化することで、同じ根源にたどり着き、それはどの表現にも変化し得る。」

当時その考えに至った自分は、漫画劇画部部長の職をやらせて頂いた2009年当時、それらの考えを実現させるべく部員たちの協力の下様々なことを実行した。

始めに紹介させて頂くと、本郷学園漫画劇画部は今年で創部45年、設立には「こち亀」作者・秋本治先生が中心に携わったと言われ、「北斗の拳」作画・原哲夫先生、「口卜の紋章」藤原カムイ先



山口 暖志朗

漫画劇画部42代部長

高校62回生

2010年(平成22年)卒業

生他かつてデザイン科が存在した頃から現在に至るまでで公称7人(統計では日本で一番多い)のプロ漫画家を輩出した由緒ある部活動。自分の年と昨年を含め計5回程、まんが甲子園という1コマ漫画の全国大会に出席(写真)し近年の実績も大きく、自分がこの部活に関われたことは一生の誇りだと思っっている。



さてその漫画劇画部には当時多くの創作意欲を滾らせた変人共が跋扈していた。中でも異彩を放っていたのが「文芸志望」の部員。

本郷内ではこの数年前から文芸部を作ろうという動きがあったのだが、構成員不足から何度も頓挫しており、彼らと親和性が高かった漫画部にそれなりの人数が流入していた。前記のような野心を抱いていた自分は彼らと意思が一致したため、「漫画劇画部文芸科」の設立を行った。

「漫劇文芸科」の活動とは、同じ物書き同士で創作についての意見を討論しながら自らの作品作りに打ち込み、9月の本郷祭で発行する「文芸本」に作品を寄稿することである(一応「漫画部」であるため彼らには小説の絵一枚を描くのを頑張るという制限を設けた)。

漫画という表現は文章に比べて低く見られがちだ。一般的な学校で

は持ち込めば没収の対象となるのが当たり前であり、時にはいたずらに社会から非難の目を向けられる。

だが前述の通り全ての表現は根本的に一つであり、漫画は映像的な流動性と静止画の印象力、小説の文字性を併せ持った表現方法の一つである。学校で没収されるのは「漫画だから」でなく単に学内での娯楽を制限するための手段であって欲しいし。漫画は他の表現に比べ決して劣っても無ければ低俗でもない。

「芸芸本」は成功した。100部近く刷ったこの本は発売30分後には完売し、芸芸という表現もまた多くの人が望んでいることを実感できた（売り切れて買えなかった方には大変申し訳なく思う）。また漫画部の本業である漫画同人誌「本郷本」も前年比100部増刷・販売し過去最高の販売部数を達成・完売した。



一人でも多くの人に広く自分たちの作品を読んでもらうことが目標のことであり、この時本を買って下さった方々には大変ありがたく思うし、当時自らの作品に全力で打ち込み、漫画部を支えた部員達には改めて敬意を表したい。また当時我々部員を支えて下さった顧問の先生方にも多大な感謝を。

現在漫画画面部では卒業生によ

りOB会が結成され、定期的に合同誌を印刷、所属会員の大学漫研同士の交流といった活動が行われており、また漫画部は縦の繋がりが強く、卒業生もよく現役部を訪問し、時には現役部員の作品制作を補助するといった事も各人により成されている。加えて各個人により漫画や小説だけでなくゲーム製作や立体造形・映像製作に挑戦する人も居り、日本経済におけるコンテンツ産業の重要性が増す中、ジャンルを限定しない多分野での活動が期待される。

さる3月には旧デザイン科OBの方々が集まりデザイン科展が開催される等、本郷卒業生の方々による創作活動が活発になっていると聞き及んでいる。デザイン科が無い時代に学生生活を送った我々だが、創作活動に携わる卒業生として、可能な限り先輩方と交流を持ちたいと考える次第である。

同期の

輪

同期の輪
 高校61年生（2009年⇨平成21年⇨卒業）
 成人の集い

宮島 大貴

2009年3月、卒業。中学、高校と本郷学園で過ごした6年間は、あつという間に過ぎ去った。過日の集い（写真⇨2011年5月21日）で久しぶりに会った仲間たちは、どこか垢抜けていて面影だけが当時のままだった。まだ月日がそれほど経っていないのに、大きく印象が異なっていた。制服ではないからか？

自分自身を見つめ直すと、男子校であった本郷学園から、美大（武蔵野美術大学）という真逆の環境で、自分でも理解し得ぬ、変化が

あつただろう。友人からは変わらな
 いと言われ、少しばかり反省さ
 せられたが、話していくうちに互い
 の境遇の違いに、今までとは違う一
 線を感じた。

未だお酒よりサイターな自分自
 身からすれば、皆の呑みっぷりに驚
 いたが、会話は弾む。弾むほどに本
 郷学園在学当時の自分に戻ってい
 く心が、ひたすら進んできた自分
 を不思議な気持ちにさせた。

フェイスブックやツイッター。たく
 さんの媒体で離れた仲間の近況が
 わかる時代。集いを通じて、実際に
 会ってわかる相手の表情、目と目で
 話す歓びを改めて痛感した。本郷
 同窓会の方々のご厚意で、機会を
 与えていただいたこと、心から感謝
 の意を表したい。

そして次のステージが我々を待つて
 いる。社会人という、長年の学生生
 活からの脱却。今度、集うとすれば、
 私たちが世のため、人のために働い



てからだろう。そのとき、もう一度、ひたすら進んできた自分を見つめ返す、貴重なチャンスが待っている。

同期の輪
中学18回生（1945年昭和20年卒業）
第40回本中18回総会を終えて

志田 芳久

前日まで降り続いた雨も上がり、爽やかな朝を迎えて、第四十回本中十八回総会が例年どおり日本教育会館で行われました（2011年11月12日）。当日は三十名の参加が予定されていましたが、五名の欠席者が出て、二十五名で開会しました。

会は山口二君の司会で始まり、冒頭最近物故された、愛利三、高橋二夫、後藤良一、宮田昭平、鈴木充の諸氏に対して黙祷し、ご冥福を祈りました。続いて会長挨拶に移り、大塩会長から「東北大震災へのお見舞いに言及しながら、参加者の再会を

喜ぶ言葉」が述べられました。そして議事にしたがって、会計報告、監査報告と続き講演に入りました。

講演は前東京地検統括捜査官・郷土史家の加藤浩正君により「古代史よもやま話」と題し古墳群をつなぐ、北斗七星の配列に付いて語られました。詳しい識見にもとづく発表に感銘を受けました。例年ですとここで記念撮影となるのですが、今年は何田君の欠席で果たせませんでした。

やがて各自のスピーチに入り、それぞれがそれぞれ思い思いの含蓄ある体験を語ってくれました。その中で世界チャンピオンとなった「なでしこジャパン」の澤選手は佐々木一昭君に指導を受けていた事、歌舞伎座が来年完成する事、本郷中学の校庭が人工芝になった事などのほか、同窓会費の納入では十八回が最高という嬉しいお知らせも含まれていました。こうし

た中で、我々は卒業証書をもらったでない事にきびきました。そう言えば我々の卒業期は戦争末期の混乱の時でした。仕方が無かったのでしょうか。

やがて食事の準備が整い、渡部君の音頭で乾杯し、懇談に入りました。そして大原君の中締めでめ



「写真は2012年1月18日の新年会」

でたくお開きとなりました。我々十八回は懇談の中で語られた通り、戦争末期の混乱の中で卒業し、卒業式も出来なかった時代でした。その十八回が奇しくも四十回もの総会を続けられたことは、奇跡に近い出来事のように思われます。その努力の一端に案内状に書かれた前田君の言葉に表れています。その言葉を再び引用させて頂き結びとします。

「中略：その別れ方が異常だったこと。それこそ、ちりぢりばらばらでした。そして戦後に皆さんと再会。この味がたまらなかったので…」

同期の輪
高校8回生 (1956年≡昭和31年≡卒業)
町屋支部有志食事会の報告

新澤 米次

今年1月14日(土)午後12時半、横浜中華街で食事会を開催。

明治、大正、昭和、平成と四時代



に関係した我々仲間は、昭和11年、12年、13年に誕生した。父母は明治生まれ、又は大正ロマンを味わった世代。我々同輩は育ちざかりが戦中で食糧事情の悪い時。この時代を過ごし元気に生活している。この時代の生活の知恵が今日の本郷学園に生きている。第二の人生を前向きに考え、開拓精神、少欲知足を心に持

ち、平和な時代につなげて良かったと実感している。

今回は夫人同伴者が五組、主人を見送り三回忌をすませた夫人も参加(写真)し、中華の食事会は盛況だった。再会を楽しみに横浜港を見て家路についた。

同期の輪
高校13回生 (1961年≡昭和36年≡卒業)
同期会
 齋藤 毅

同期会。皆に会える機会は年に1度(毎年11月第2日曜日)なので、出来れば参加して青春時代のことを懐かしく話し、同期生の無事を確認しあう場になって欲しいと願っております。

話題はまだ誰にも話していないことや修学旅行の話など盛り上がり、なごやかなひとときを過ごすことが出来ました(写真)。また、卒業以来、初めての再会というサプライズもあり、なつかしくも楽しい雰

囲気に包まれた時間でした。

次回は「古希」の年に当たり、どんなサプライズが待っているのか楽しみです。まだ、参加していない仲間への安否を思いつつ散会しました。



同期の参

高校15周年
「卒業50周年記念同窓会」準備会

高田 隆義

2012年。卒業50周年を記念する同窓会を開催するため、同期の方々に広く呼びかけた準備会を開きました。

2011年11月19日(土)。朝から、ひとしおの雨に色づき始めた銀杏並木は、しつとりと其の葉をぬらし、深まりゆく秋は初冬へと佇まいを移しつつあるこの日でした…。

今回、集まった同期性は12名。卒業してから早、49年の月日、又、組など違いは初対面も同然。懐かしい顔なんて言葉だけでした。それでも30分も経たぬうち、もう周知の仲間になっている。いかにも本郷らしい…。

強健、厳正、男らしく、人を思いやる心、とか高校時代に培った本郷精神の表れでしょうか。屈託のない話が始まり、「記念同窓会」をどの



ようにしたら、より多くの仲間につながが取れるか?他に知っている仲間はいないか?などと、話は尽きません。学園談議に花が咲き、楽しい時間を共有することができました。有意義な準備会を開くことができました。

またこの日、私達は予期せぬ出来事に驚かされました。たまたま隣接



同期の会

高校23回生（1971年＝昭和46年＝卒業） デザイン科「還暦クラス会」

押田 松兎

する会場で本郷同窓会役員の会議があったようで、どこで聞きつけたのでしょうか、南谷修同窓会会長、秋元幹夫副会長が、わざわざ私達のところへお越し頂き、激励と同窓会の話や面白い昔話等、いろいろお話をされ、最後は記念写真にも応じて頂き、嬉しいサプライズとなり、共々に「記念同窓会」をしっかりとやりましょう、との思いで散会しました。

前回に開かれたクラス会から30年あまりの月日がたち、みんなと連絡をとる機会も持たず60歳に近づく年齢になりました。

担任の唐沢先生も30年前に本郷高校を退職され画家として新しい人生を歩むことになり地域の絵画教室の講師や定期的に個展を開き活発に活動しています。その会場は同級

生や本郷卒業生の情報確認ができる場所でもありました。

昨年の夏、先生から「還暦にはまだ早いがクラス会を開こう」との申し出があり、早速みんなにこのことを伝え、10月1日に菓嶋の三菱養和会スポーツセンターのレストランに集まることにしました。

いざ住所確認をはじめると長い時間の経過により住所変更はもとより職場を変わった者もおり連絡に難渋しました。この際、同窓会から名簿の協力をいただき助かりました。なんとか16名の出席連絡をもらいましたが、より多くの人に出席してもらいたいと思いい、クラスの者だけでなく当時の先生方にも連絡し、デザイン科の小澤、三好先生、国語の佐藤亮先生にも出席していただけることになりました。

ひさびさの面々（写真）はすっかり容姿も変わり長い年月を感じさせられ、あの日のおまえは何処へ行ったのだと思うほどです。しかし話が進む



うちに思い出の時計は反転したごとく、気持ちには高校生にもどって行きました。ここに至るまでの道のりなどを語り合い楽しい時間を過ごしました。次の再会を約束して散会。

唐沢先生は、このあと病氣療養のため入院することになりました。回復を心からお祈りしております。

TOPICS

トピックス

▼ 本郷東大会 今年も開催

幹事・市川 貴大 高校62回生
2010年(平成22年)卒業

今年も3月27日に池袋で本郷東大会が行われた。本郷高校から東京大学に進学した5人(写真)が夕食を共にしつつ、お互いの近況や将来の進路など、様々な話題について話しながら、終始和気あいあいと会が進んだ。お互いに年に1、2回程度しか会えないため、久しぶりに



歓談できた嬉しさを参加者は実感していた。

本郷東大会は、本郷出身の東大生同士の結びつきが希薄であったことから、こうした関係を強化するために作られた会である。東大に実際入学してみると、毎年、数十人または百人近く東大合格者を出している高校の出身者は、高

校の先輩・後輩同士の結びつきが強いことを感じる。その一方、本郷OBの東大生同士はキャンパス内で会うことも稀であった。しかし、周囲の状況を見てみると、本郷出身者が交流する場を作り、切磋琢磨していく必要性を実感したため、私の4期上の先輩が2007年の秋に本郷東大会を立ち上げたのである。その後は、年に1、2回参加者を募って夕食を共にしながら、お互いの近況を報告しあっている。

この会の大きな魅力は、現役でいる間には減多にない5つ位年上の先輩たちと話す機会がある点と、東大にいる本郷同窓生の団結が図れる点である。毎回、参加者は5、10名ではあるが、毎年定期的に行われており、かなり有意義な会となっている。今後とも後輩たちにバトンタッチしながら継続していきたいと思っている。

▼先輩の講演に 勇気もらおう

石坪 英貴 高校31年生
1979年(昭和54年)卒業

世界一のおもちゃコレクターとして知られ、横浜ブリキのおもちゃ博物館館長の北原照久先輩(高校19回生)の講演を拝聴し、勇気をいただきました。

講演は、タイトルは忘れましたが、生い立ちから今日までのサクセスストーリーだったと記憶しています。そのなかでとくに強く心を打たれたのは、本郷高校時代の担任の「やればできるじゃないか」との励ましが生人生最大の転機となり、「夢は必ず実現する」との信条を貫いてきた、との話です。

私もその先生の授業を受けていましたので、本郷での生活が懐かしく思い出され、車イス生活の母を介護しつつ白血病と闘う境遇に負

けず、自信をもって生き抜いていこうと思いました。

講演のあと、先輩との面談もかない(写真)、久しぶりに楽しいひとときでした。

昨年9月3日に千葉県館山の南総文化ホールで開催された講演会でのことです。



北原さん(右)と石坪さん

▼4号館がリニューアル

学園創立90周年記念事業の一環として建て替えられた4号館は3階建て(写真)。1階が多目的ホールで、2、3階は技術・美術・工芸などの実技系教室になっています。人工芝の緑に白亜の学び舎が映えます。

引き続き2号館も建て替えられ、2年後には近代的設備の整った地上5階地下2階の校舎が完成します。



O
B
会
通信

スキー部

40周年にむけて

立入 健司 高校26回生
1974年(昭和49年)卒業

久しぶりの大雪となった今年の冬、昨年の大震災に続き被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、わがスキー部は札幌冬季オリンピックが開催された1972年4月に、高校2年生有志により同好会として活動を始めました。

発足当時は雪のない地域でのクラブ活動ということで、オフシーズンのトレーニングはもっぱら走ることに！毎日毎日、六義園・古河庭園・飛鳥山・とげぬき地蔵・染井霊園と名所巡りのようなコースをただひたすらに走り回り、途中飛鳥山に展示されているSLの上で一休みした時の風や、木材店の前を通る時の木の香りが、懐かしく思い出されます。

そして冬の合宿に備え、雪上での練習方法等を部員一同で試行錯誤する日々でした。

当初は、アルペン種目(回転・大回転)の選手のみでしたが、6年後にはノルディック種目(クロスカントリー)の選手も加わり、少しずつ東京都の中で頭角を現すようになってまいりました。

初代顧問の田中要之祐先生から三好修先生・沢辺俊夫先生を経て現顧問の佐々木隆太先生まで熱心



35周年記念 本郷中庭にて

なご指導を頂き、8年目から関東大会はもちろん、国体やインター杯出場選手も数多く輩出しております。

昨今競技スキー人口が減少傾向にあり、本校スキー部も決して例外ではありませんが、今シーズンもアルペン・ノルディック共に活躍し、インター杯にも出場しております。

OB会は、二期生の卒業と同時に発足され、現役スキー部合宿のサポート、春合宿における卒業生(新OB)の歓迎会、OB杯争奪スキー大会、現役部員とOBとの親睦会、その他必要に応じての援助を主な活動目的としております。

OB会員数250名、2012年には創部40周年を迎えることとなり、今秋の本郷祭の後に記念式典を予定しております。

今、40年を振り返りますと、「強健、厳正、勤勉」を校訓とする本郷高校のスポーツに対するご理解と、

顧問の先生方をはじめ日頃の練習や合宿等で知り合えた皆様との巡り合わせが、本当に幸運であったと感謝申し上げますと共に、今後ともご理解ご指導をお願い申し上げます。

卓球部

部活の合宿にも参加

奈良部 徹 高校60回生
2008年(平成20年)卒業

我々本郷高校卓球部OBは毎年12月30日にOB会を開催しています。このOB会には昼の部と夜の部があり、昼の部では母校にて現役時代に劣らない熱い卓球の試合を、夜の部では当時の顧問の先生と共に料理を囲みながら上は30歳

代半ば、下は大学生というOB同士が交流を深めています。毎年参

加人数が多く、去年は昼と夜合わせて総勢40名以上ものOBが集まりました。このような世代を超えたOBの楽しい交流の会が今後とも開催できるようにOB間の連携をしっかりと取っていきたいと考えています。

この他に我々卓球部OB有志は毎年夏に行われている本郷中学、高校の合宿にコーチとして参加しています。OBは主に練習の手伝いや卓球に取り組む姿勢を指導しています。特に高校を卒業した後も卓球を続けているOBの指導は生徒達からの評判が良く、1週間もない期間で卓球の腕前はもろんのこと卓球に取り組む姿勢も変わる生徒も少なくありません。その後の卓球部の良い試合結果の報告を受けるとOB皆一同喜びも一入です。

自・2012年4月1日 至・2013年3月31日

会員相互の意見と親睦

- 定期総会 日時…6月16日(土) 15時。会場…母校会議室
- 総会後の会員懇親会 日時…6月16日(土) 17時。会場…三菱養和会・巢鴨スポーツセンター」内。費用…同窓会負担(会費1人3,000円を徴収し費用に繰り入れ)
- 成人の集い 卒業2年後に成人となるお祝の同期会「成人の集い」を開催。第5回(高校62回生(2010年 平成22年 卒業)) 日時…5月19日(土) 14時半。会場…三菱養和会「巢鴨スポーツセンター」内。費用…学園と同窓会で二分し負担(会費1人1,000円を徴収し費用に繰り入れ)
- 理事懇親会 日時…4月21日(土) 17時。会場…三菱養和会・巢鴨スポーツセンター」内。費用…同窓会負担(会費1人3,000円を徴収し費用に繰り入れ)
- 理事新年会 日時…1月19日(土) 17時。会場…未定。費用…同窓会負担(会費1人3,000円を

徴収し費用に繰り入れ)

- 本郷祭(学園文化祭・同窓会展示室の開設(会員全員) 開設日…9月15日(土)、16日(日))
- 本郷祭同窓会懇親会の開催 日時…9月16日(日) 14時～16時。会場…三菱養和会・巢鴨スポーツセンター」内。費用…同窓会負担(会費1人2,000円を徴収し費用に繰り入れ)

- 還暦の集いなど同期会開催の支援

会誌の発行

- 「銀友」41号 発行日…5月1日。発行部数…15,000部。A5版。本文52頁

母校の後援

- 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒を表彰
- 卒業生全員に記念品贈呈
- 学業優秀な卒業生に「同窓会賞」贈呈

会員名簿の管理

- 住所変更などの各種管理

ホームページの管理

- 内容の充実

その他の事業

- 学園との懇親会開催
- 父母の会との懇親会開催
- 入学・卒業式、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観

会議の開催

- 理事会 日時…4月21日(土) 15時、1月19日(土) 15時。会場…母校会議室
- 運営委員会 日時…4月21日(土) 13時、5月19日(土) 12時、6月16日(土) 14時、7月21日(土) 14時、9月15日(土) 14時、10月20日(土) 14時、11月17日(土) 14時、12月15日(土) 14時、1月19日(土) 13時、2月16日(土) 14時、3月16日(土) 14時。会場…母校教室
- 第6回「成人の集い」(高校63回生(2011年 平成23年 卒業)) 実行委員会 日時…2月16日(土) 13時。会場…母校教室

————— 同窓会からのお願い —————

年会費納入にご協力ください 一口：2,000円以上

同窓会の運営はすべて皆様の会費で行っております。

振込取扱票を同封しております。

● 第8回「成人の集い」(高校65回生
 (2013年 ≡ 平成25年 ≡ 卒業)
 実行委員会結成 ≡ 日時… 3月15日
 (金)13時。会場… 母校教室

2012年度収支予算案
 2012年4月1日～2013年3月31日

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	2,625,830	総 会 費	0
新卒者同窓会入会金	3,000,000	会誌発行費 (15,000部)	2,800,000
同窓会年会費	2,600,000	銀友製作費	
成人の集い	340,000	宛名印刷費	
会 費	110,000	ラッピング費	
学園側負担金	230,000	発送費	
本郷祭同窓会懇親会費	130,000	編集諸経費	
雑収入	2,000	行事部門	2,140,000
		成人の集い (第5回)	650,000
		本郷祭同窓会懇親会費	280,000
		本郷祭同窓会出展費	20,000
		同期会開催支援費 (活性化)	150,000
		活躍した生徒への激励費	500,000
		卒業生記念品費	150,000
		同窓会賞費	40,000
		学園懇親会費	300,000
		父母の会交歓会費	50,000
		会員名簿保守管理費	300,000
		ホームページ年間契約料	70,000
		運営委員会交通費補助	140,000
		事務費	200,000
		備品費	
		消耗品費	
		資料作成費	
		雑 費	
		予備費	250,000
		支出合計	5,900,000
		次年度繰越金	2,797,830
合 計	8,697,830	合 計	8,697,830

会員親睦会等の開催

- 定期総会 日時…6月18日(土) 15時。会場…母校会議室
- 総会後の懇親会開催 日時…6月18日(土) 17時。会場…「巣鴨スポーツセンター」内。会費5,000円
- 第4回「成人の集い」(高校61回生(2009年)平成21年(卒業)) 日時…5月21日(土) 15時。会場…三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。参加者数…116人(61回生94人、理事長・校長・担任教諭など学園関係者11人、同窓会関係者11人)。費用…学園と同窓会で二分し負担(会費1,000円を徴収)
- 理事会後の理事懇親会開催 日時…4月16日(土) 17時。会場…巢鴨・泰平飯店。会費5,000円
- 理事会後の理事新年会開催 日時…1月21日(土) 17時。会場…巢鴨・泰平飯店。会費5,000円
- 本郷祭(学園文化祭)同窓会展示室開設 開設日…9月17日(土)、18日(日)。会場…5号館3階高1・8教室

- 本郷祭同窓会懇親会開催 日時…9月18日(日) 14時～16時。会場…「巣鴨スポーツセンター」内。参加者数…82人。費用…同窓会負担(会費1,000円を徴収)

その他の事業

- デザイン科OB懇親会開催支援
- 「本郷デザイン科展」開催支援
- 会誌の発行
 - 「銀友」40号 発行日…6月1日。発行部数…15,000部。A5版。本文48頁

- 学園との懇親会開催 同窓会より11人参加。日時…11月30日(水) 18時より。会場…「巣鴨スポーツセンター」内。学園側からは理事長、常務理事、事務職員、校長、副校長、高中教頭、母校OB教諭(同窓会担当)が参加。費用…学園と同窓会が出席者数に応じて負担
- 入学・卒業式、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観

母校の後援

- 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒を表彰 10件35人
- 卒業生全員に記念品共同贈呈 印鑑を310人に
- 学業優秀な卒業生に「同窓会賞」贈呈 函書カードを10人に

会議の開催

- 理事会 日時…4月16日(土) 15時、1月21日(土) 15時。会場…母校会議室ならびに教室
- 運営委員会 日時…4月16日(土) 13時、5月21日(土) 14時、6月11日(土) 14時、7月16日(土) 14時、9月10日(土) 14時、10月15日(土) 14時、11月19日(土) 14時、12月17日(土) 14時、1月21日(土) 13時、2月18日(土) 15時、3月17日(土) 14時。会場…母校教室並びに会議室。

会員名簿の管理

- 住所変更など各種管理 外部に委託

ホームページの管理

- 逐次内容の充実

- 第5回「成人の集い」
 〈高校62回生(2010年) 平成22年(卒業)〉
 実行委員会 日時…
 2月18日(土)13時。会
 場…母校教室
- 第6回「成人の集い」
 〈高校63回生(2011年) 平成23年(卒業)〉
 実行委員会 結成 日
 時…9月17日(土)13
 時。会場…母校教室
- 第7回「成人の集い」
 〈高校64回生(2012年) 平成24年(卒業)〉
 実行委員会 結成 日
 時…3月15日(金)13
 時。会場…母校教室

2011年度収支決算報告書
 2011年4月1日～2012年3月31日

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	1,914,394	総 会 費	
新卒者同窓会入会金	3,100,000	会誌発行 (15,000部)	2,725,134
同窓会年会費	2,615,750	〔銀友製作費	〔1,408,900
成人の集い	343,187	宛名印刷費	148,412
〔 会 費	〔116,000	ラッピング費	250,517
〔 学園側負担金	〔227,187	発送費	845,295
本郷祭同窓会懇親会費	82,000	〔編集諸経費	〔72,010
叙勲祝賀会会費	4,138	行事部門	1,824,108
		〔成人の集い(第4回)	〔571,725
		〃 (第5回)	47,255
		本郷祭同窓会懇親会費	264,040
		本郷祭同窓会出展費	102,197
		同期会開催支援費(活性化)	120,147
		活躍した生徒への激励費	350,000
		卒業生記念品費	155,000
		同窓会賞費	40,000
		学園懇親会費	173,744
		〔父母の会交歓会費	〔0
		会員名簿保守管理費	353,472
		ホームページ年間契約料	48,642
		運営委員会交通費補助	140,000
		事務費	306,283
		〔用品費	〔117,737
		〔その他	〔188,546
		予備費	36,000
		支出合計	5,433,639
		次年度繰越金	2,625,830
合 計	8,059,469	合 計	8,059,469

預貯金・現金明細

銀行・他	預貯金残高	定期預金	次期繰越金
三菱東京UFJ銀行	2,574,349	0	2,625,830
郵貯銀行	2,339	0	
現金	49,142		
合 計	2,625,830	0	2,625,830

2011年度表彰記録

各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒35人(10件)を表彰

1. 日本物理学会第7回Jr.セッションで発表した二つの研究が奨励賞を受賞=①テーマ「水の冷却 ニュートンの法則の拡張」:(高校)渡邊正理、鈴木智充君(中学)野村直生、三上紘史君。②テーマ「渦電流の行路の特定に関する考察」:(高校)櫻井幹生、児玉真一、高田周平君(中学)桐野将君
(8人:6月11日表彰)



2. 第20回「全国高等学校漫画選手権大会～まんが甲子園～」に出場:倉部豊弘、山田大悟、林雅頼、藤野樹也、正村公宏君
(5人:7月16日表彰)



3. 第7回全国物理コンテスト物理チャレンジ2011第2チャレンジで奨励賞を受賞:(高校)櫻井幹生、渡邊正理君
(2人:7月16日表彰)



4. 第51回全国中学校水泳競技大会「200m個人メドレー」に出場:中山端稀君
(1人:7月26日表彰)



5. 「2つ穴空気砲および非円形の空気砲の考察」論文で朝永振一郎記念第6回「科学の芽」賞(主催:筑波大学)を受賞:(高校)佐藤健史、梶原理希君
(2人:12月17日表彰)



6. 第14回全日本中学高等学校WebコンテストThink Quest JAPANで銀賞を受賞:(高校)斎藤悠太、小助川大知、鈴木瑛斗君



7. 第61回全国高等学校スキー大会「クロスカントリースキー クラシカル・フリー」に出場:竹内雅浩、小野澤健作君



8. 第67回国民体育大会冬季大会スキー競技会「クロスカントリースキー クラシカル・フリー」に出場:小野澤健作君
(以上3件6人:2月25日表彰)

9. 日本物理学会第8回Jr.セッションで発表した二つの研究が奨励賞を受賞=①「水の冷却 ニュートンの法則の拡張 第2報」:(高校)渡邊正理、後藤雅貴、梶原理希(中学)野村直生、三上紘史君。②「音による紙コップの移動」:(高校)桐野将、鈴木智充、瀬町崇浩、関口翔太、佐藤健史君
(以上3件6人:2月25日表彰)



10. 第4回日本地学オリンピック大会本選に出場:(高校)桐野将君
(以上2件11人:3月17日表彰)



2011年度定期総会報告

山際 幸雄 高校18回生(1965年=昭和41年=卒業)

日時：2011年6月18日(土)午後3時
 会場：本郷学園本館2階会議室
 出席者：40名

野田悠二理事
 (高校24回生=昭和
 47年卒業)が司会
 を務め定期総会
 の開会を宣言した。

初めに東日本大
 震災の犠牲者及び
 同窓会の物故者に
 黙祷をささげる。

この後の「あいさ
 つ」では、北原福二
 校長が、学園の現況
 について運営面でも
 「右肩上がりでも頑
 張り模範になって
 いる」と前置きし、
 その具体例として
 他校が、生徒たち
 が主体的に進める
 学園体育祭を見学
 し、東日本大震災時に、約6000人が帰宅困難とな
 りながらも整然と校内に宿泊し、翌日には全員帰
 宅できた日頃の危機管理体制の視察に訪れたこと
 を報告した。そのうえで、同窓会の生徒たちに対す
 る支援に深謝し、今後のますますの励ましを要請
 した。



次いで南谷修同窓会会長(高校8回生=昭和31
 年卒業)は、まず、2月に行われた松平頼武理事長の
 「旭日小綬章」受賞祝賀会の参加者にお礼を述べ、
 続いて北原校長の著書「男の子が自立する子育て」
 を紹介するとともに、東日本大震災時に教職員・生
 徒が一体となって対応したことを高く評価した。さ
 らに中学生の夏期教養講座に南谷会長はじめ3人
 の同窓生が講師を務め、「生徒たちとの交流を深め
 たい」と報告し、「今後とも同窓会への力添えをお願
 いしたい」と要望した。

定期総会は、会則第11条2項にもつぎ南谷会
 長が議長を務め、議長が書記に小室能広副会長(高
 校8回生=昭和31年卒業)、山際幸雄理事(高校18
 回生=昭和41年卒業)を指名し、議事に入る。

第1号議案 理事・役員人事の件

議長から会則第7条(3)にもつぎ、別紙総会
 資料1頁「本郷学園同窓会役員」(「銀友」40号39
 頁掲載に木塚順夫氏を追加)に示す新理事の人事
 案が提案され、秋元幹夫副会長(高校7回生=昭
 和30年卒業)より、会長が木塚順夫(高校8回生
 =昭和31年卒業)、野水国(高校20回生=昭和
 43年卒業)、赤井健郎、加納耕助、染谷幸雄(高校
 22回生=昭和45年卒業)、荻山温夫(高校56回生
 =平成16年卒業)、池田貴生(高校57回生=平成
 17年卒業)、宮島大貴、佐藤明彦、柳田将、松井洋
 輔(高校61回生=平成21年卒業)の11氏に理事を
 委嘱したとの報告があり、全会一致でこれを承認
 した。

第2号議案 2010年度事業報告の件

議長から会則12条(4)にもとづき、別紙総会資料2頁「2010年度事業報告」(「銀友」40号34頁掲載)が提案され、秋元副会長が松平理事長叙勲祝賀会の開催、本郷祭同窓会ブース・サロンの開設、母校の後援等について総括的に報告した。また個別の事業について議長の指名により同窓会誌「銀友」第39号発行について市倉洋一副会長(高校12年生)昭和35年卒業)が「同期の輪が多数寄せられ充実した」と報告。同窓会活性化担当の井上栄三郎副会長(高校10年生)昭和33年卒業)が「成人の集い」の開催、同期会等の開催支援について、またホームページ管理に関して野口貴洋理事(高校35年生)昭和58年卒業)がシステム更新等の報告をした。さらに秋元副会長から英文「本郷のあゆみ」の製作・寄贈、別紙総会資料3頁の在校生の表彰、中学校夏期教養講座の担当等の追加報告があり、全会一致でこれを承認した。

第3号議案 2010年度収支決算報告の件

議長から会則第12条(4)にもとづき、別紙総会資料4頁の「2010年度収支決算報告書」(「銀友」40号35頁掲載)が提案され、斉藤毅副会長(高校13年生)昭和36年卒業)が報告し、全会一致でこれを承認した。なお、議長の指名により篠喜三郎(高校6年生)1954年卒業)監事が4月13日(日)に行った2010年度会計監査について「会計処理は公正かつ妥当なものである」と報告し、これを承認した。

第4号議案 2011年度事業計画(案)の件

議長から会則12条(1)にもとづき、別紙総会資料5頁の「2011年度事業計画(案)」(「銀友」40号32頁掲載)が提案され、秋元副会長が説明し、そのなかで当該定期総会の開催通知を「銀友」40号の発送に同封したことを報告した。さらに「銀友」40号の発行、同窓会活性化計画、ホームページ管理の概要について、担当の市倉副会長、井上副会長、野口理事よりそれぞれ説明があり、全会一致でこれを承認した。

第5号議案 2011年度収支予算(案)の件

議長から会則12条(1)にもとづき、別紙総会資料6頁の「2011年度収支予算(案)」(「銀友」40号33頁掲載)が提案され、斉藤副会長が説明し、全会一致でこれを承認した。

第6号議案 報告事項

秋元副会長より発言があり、同窓会費納入者のうち約30人の氏名が「銀友」の納入者一覧から漏れていたミスがあり、該当者に会長、事務取扱者の連名の書状をもって、お詫びしたことを報告した。

この後、質疑応答や新任理事の挨拶、出席者からの発言が懇談的にあり、玉川昭副会長(中学19年生)昭和20年卒業)が閉会の辞を述べ、議事を終了した。

2011年度

本郷祭報告

新澤 米次 高校8回生
1956年(昭和31年)卒業

平成23年度(2011年度)の本郷祭のテーマは『無限の可能性』だった。9月17日(土)、18日(日)の二日間にわたって開催。本郷祭実行委員長が『本郷祭をより良いものになりたい。来てくれた人を楽しませたい』と、言葉の通り情熱を表わしたものだ。現場にきた人々の『心の通った交流』を演出してくれた。

同窓会運営委員会の皆さんの意見は熱が入った。同窓会展示目的は古地図を探そうだった。当時昭和10年の入学状況、生徒の分布、教師の面々、教科の内容、交通手段などを調査した。当時の豊島区の呼び名、学校の位置、生徒の地区別分類など学校の記録をもとに調査し、今回の同窓会のテーマにした。



本中時代、新制高等学校、機械科、デザイン科時代のアルバムを展示した。卒業年度別に配置し、自分の卒業年度に親しみを感じてもらおう。さらに都電開通100周年の記念に当たる年と重なり、当時の市電、系統路線地図も掲載した。又当時の学生気質を知るうえで、「本中数え歌」、「本中ツッポン節」を拡大コピーして展示した。デザイン科卒の漫画家7名は有名となり現在活躍中である。漫画高校ランキングも全国第1位であった。他

校との比較分類に大変注目を集めた。巡回してきた松平理事長、北原校長なども永く足を止め、この記事を見て7名の名前をカタログの余白にメモをされていた。

今回の本郷祭には大勢の人がやってきた。同窓会の部屋も卒業生中心に父母など、2日間にわたって賑わった。今回都合で参加できなかった同窓会OBの方々は、是非来年度は足を運んで、卒業当時の学校、青春時代を思い出して下さい。伝統ある本郷学園を再認識するチャンスです。また親子三代本郷生も育っています。



9月18日(日)午後2時より恒例となった同窓会懇親会(サロン)が三菱養和会2Fレストラン『パルテール』で開催され、大先輩達3人の激励や含蓄ある話しに歓談の輪に花が咲いた。

本郷学園同窓会役員(案)

(名誉会長、顧問、相談役を含む) 任期は2015年度総会まで

名誉会長
松平 頼武 (学園理事長)

会長
南谷 修 高校8回 1956(昭和31)年卒

副会長

玉川 昭 中学19回 1945(昭和20)年卒
秋元 幹夫 高校7回 1955(昭和30)年卒
小室 能広 高校8回 1956(昭和31)年卒
井上栄三郎 高校10回 1958(昭和33)年卒
市倉 洋一 高校12回 1960(昭和35)年卒
斉藤 毅 高校13回 1961(昭和36)年卒

監事

篠 喜三郎 高校6回 1954(昭和29)年卒
木塚 順夫 高校8回 1956(昭和31)年卒

顧問

北原 福二 (学校長) 中学13回 1940(昭和15)年卒
中村 允 高校3回 1951(昭和26)年卒
山内 英夫 高校3回 1951(昭和26)年卒

相談役

宮本 幸雄 中学15回 1942(昭和17)年卒
植松 隆吉 高校3回 1951(昭和26)年卒

運営委員

新澤 米次 高校8回 1956(昭和31)年卒
山際 幸雄 高校18回 1966(昭和41)年卒
梶 徳治 高校20回 1968(昭和43)年卒

理事

赤井 健郎 高校22回 1970(昭和45)年卒
野田 悠二 高校24回 1972(昭和47)年卒
立入 健司 高校26回 1974(昭和49)年卒
野口 貴洋 高校35回 1983(昭和58)年卒

高野 正美 中学17回 1944(昭和19)年卒
岡田 光正 中学18回 1945(昭和20)年卒
前田 和男 中学18回 1945(昭和20)年卒
野木 惣市 中学19回 1945(昭和20)年卒
田島 利男 中学20回 1947(昭和22)年卒
望月 敏郎 高校3回 1951(昭和26)年卒
地曳 秀雄 高校3回 1951(昭和26)年卒
岡本 信也 高校10回 1958(昭和33)年卒
上本 清治 高校10回 1958(昭和33)年卒
久保 國男 高校12回 1960(昭和35)年卒
熊木 宏治 高校12回 1960(昭和35)年卒
山本 達雄 高校12回 1960(昭和35)年卒
阿出川 信夫 高校13回 1962(昭和37)年卒
池田 雅彦 高校14回 1962(昭和37)年卒
高田 隆義 高校15回 1963(昭和38)年卒
杉山 勝正 高校15回 1963(昭和38)年卒
園部 一郎 高校17回 1965(昭和40)年卒
小倉 義雄 高校18回 1966(昭和41)年卒
関塚 正治 高校20回 1968(昭和43)年卒
野水 国一 高校20回 1968(昭和43)年卒
富岡 俊明 高校21回 1969(昭和44)年卒
中田 守善 高校21回 1969(昭和44)年卒
加納 耕助 高校22回 1970(昭和45)年卒
池谷 幸雄 高校22回 1970(昭和45)年卒
染野 直樹 高校23回 1971(昭和46)年卒
田中 良一 高校24回 1972(昭和47)年卒

千野 邦雄 高校25回 1973(昭和48)年卒
平野 隆之 高校26回 1974(昭和49)年卒
立石 嘉男 高校28回 1976(昭和51)年卒
佐藤 修一 高校31回 1979(昭和54)年卒
遠藤 千秋 高校33回 1981(昭和56)年卒
山本 一博 高校34回 1982(昭和57)年卒
佐藤 和明 高校39回 1987(昭和62)年卒
移村 真男 高校42回 1990(平成2)年卒
下村 大樹 高校45回 1993(平成5)年卒
野村 竜太 高校46回 1994(平成6)年卒
庄野 直哉 高校47回 1995(平成7)年卒
荻山 温夫 高校56回 2004(平成16)年卒
池田 貴生 高校57回 2005(平成17)年卒
金尾 晋一郎 高校58回 2006(平成18)年卒
黒部 直樹 高校58回 2006(平成18)年卒
御子柴 怜志 高校58回 2006(平成18)年卒
岡本 健太郎 高校59回 2007(平成19)年卒
高宮 成将 高校59回 2007(平成19)年卒
田中 大貴 高校59回 2007(平成19)年卒
石田 武 高校60回 2008(平成20)年卒
塩野 智也 高校60回 2008(平成20)年卒
西村 友吾 高校60回 2008(平成20)年卒
宮島 大貴 高校61回 2009(平成21)年卒
佐藤 明彦 高校61回 2009(平成21)年卒
柳田 将 高校61回 2009(平成21)年卒
松井 洋輔 高校61回 2009(平成21)年卒
山田 友紀 高校62回 2010(平成22)年卒
若林 駿 高校62回 2010(平成22)年卒
宇賀 直道 高校62回 2010(平成22)年卒
手島 秀則 高校64回 2012(平成24)年卒
中村 建介 高校64回 2012(平成24)年卒

学園だより

本郷高校 2012 年度大学入試合格実績

大学名	現役	浪人	計
国公立			
東京	3	4	7
京都	3	1	4
一橋	2	1	3
東京工業	2	3	5
北海道		1	1
東北	2	3	5
名古屋		1	1
筑波	5	1	6
千葉	4	7	11
埼玉	1	2	3
東京外国語	1		1
東京学芸	1		1
東京農工	7		7
電気通信	2		2
首都大東京	3	1	4
横浜国立	1	2	3
横浜市立		1	1
東京海洋	1		1
信州	3	1	4
琉球	1		1
秋田		1	1
群馬		1	1
山梨		1	1
大阪市立	1		1
兵庫県立		2	2
防衛	3	1	4
防衛医科	1	2	3

大学名	現役	浪人	計
私立			
早稲田	71	28	99
慶応義塾	35	21	56
上智	23	20	43
東京理科	42	40	82
明治	62	52	114
青山学院	17	13	30
立教	26	16	42
中央	39	32	71
法政	25	20	45
学習院	10	7	17
成蹊	11	5	16
成城	4	4	8
明治学院	11	5	16
日本	30	26	56
専修	14	10	24
東洋	9	7	16
駒澤	7	5	12
獨協	3	6	9
國學院	6	1	7
武蔵	2	6	8
神奈川	1	1	2
玉川		1	1
大東文化	1	1	2
東海	2	1	3
亜細亜		1	1
帝京	6	2	8
国士館	5		5
拓殖	1	1	2
東京経済	4	3	7
国際基督教		2	2
東京都市	5	1	6
芝浦工業	30	15	45
麻布	1		1
関西学院		4	4
北里	3	5	8

大学名	現役	浪人	計
私立			
杏林		3	3
近畿		3	3
工学院	5	2	7
順天堂	1	2	3
城西	1		1
昭和	1	4	5
聖マリアンナ医科		1	1
創価	1		1
大正	1		1
千葉工業	1		1
千葉商科	2		2
東京医科	1		1
東京慈恵会医科	1	3	4
東京電機	10	4	14
東京農業	6	1	7
東京薬科	1		1
同志社	1	2	3
東邦	4	6	10
獨協医科	1	1	2
日本医科	1		1
日本歯科	1		1
日本獣医生命科学	1		1
文教	1		1
星薬科	1	2	3
武蔵野	2	1	3
武蔵野美術	3		3
明海	1		1
明治薬科	3		3
立命館	5	6	11
立命館アジア太平洋	1		1
麗澤	1		1
岩手医科		2	2
東北学院	1		1
関西		1	1
埼玉医科		1	1

2011 年度退職教員

社会 野沢 誠

2012年4月10日現在

◆ 第一章 名称及び位置 ◆

《名称》

第一条 本会は本郷学園同窓会という。

《位置》

第二条 本会は事務所を東京都豊島区駒込四丁目十一番一号
学校法人 本郷学園内に置く。

◆ 第二章 目的 ◆

《目的》

第三条 本会は会員相互の親睦を深め母校の発展をはかることを目的とする。

《事業》

第四条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 会員の親睦会の開催
- (2) 会誌の発行
- (3) 母校の後援
- (4) 会員名簿の整備管理
- (5) ホームページの管理
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事業

◆ 第三章 組織及び役員 ◆

《会員》

第五条 本会は次の会員により組織する。

- (1) 旧制本郷中学校及び本郷高等学校卒業生
- (2) 本郷中学校卒業生及び旧制本郷中学校並びに本郷高等学校に在籍したことのある者で理事会の承認を得た者

《役員》

第六条 本会には次の役員を置く。

会長 一名、副会長 若干名、理事 各任期若干名、監事 二名

《役員選出》

第七条 前条の役員は次の方法により定める。

- (1) 会長は理事会において理事の互選により選出する。
- (2) 副会長は理事の中から会長の委嘱によつて定める。
- (3) 理事は各任期の中から選出し、総会の承認を得るものとする。ただし選出のない任期からの理事は会長が委嘱し、総会の承認を得るものとする。

(4) 監事は総会において会員の中から選出する。

《名誉会長及び顧問、相談役の設置》

第八条 本会に名誉会長及び顧問、相談役を置くことができる。二名誉会長は本郷学園理事長にこれを委嘱する。三顧問は本郷学園名誉校長及び校長並びに本会会長経験者にこれを委嘱する。

四 相談役は副会長、理事、監事の経験者の中より会長がこれを委嘱する。

《役員の仕事》

第九条 役員は次の任務を行う。

- (1) 会長は会を代表して会務を総括執行する。
- (2) 副会長は会長を補佐し会長事務を代行する。
- (3) 理事は理事会に出席して本会の運営に参画する。
- (4) 監事は会計を監査する。又、理事会及び運営委員会に出席し意見を述べることができる。
- (5) 理事及び監事は相互に兼ねることはできない。
- (6) 顧問、相談役は会長の要請により会議に出席する。

《役員の任期及び解任》

第十条 役員は任期は三年とする。ただし再任は妨げない。二補充により選出された役員は任期は三年間の当該任期の残任期間とする。

三 前第一項、第二項にかかわらず、役員は次期役員の出日までは、なお、その任務を行う。

四 会長は役員が同窓会の役員としてふさわしくない行為を行った場合、又は特別の事情がある場合には、副会長と協議のうえ当該役員を解任することができる。

◆ 第四章 会議 ◆

《会議》

第十二条 本会の行う会議は総会、理事会、運営委員会とする。

二 会議の議長は会長がこれにあたる。

《総会》

第十三条 定期総会は毎年一回、事業年度終了後三か月以内に開催し、次の事項を審議し議決する。

- (1) 事業計画及び収支予算の決定

(2) 会則の改正

(3) 理事の承認並びに監事の選出

(4) 事業報告及び収支決算の承認

(5) その他本会の運営に関する重要事項

二会長は理事会の議決により臨時に総会を招集することができる。

《理事会》

第十三条 理事会は会長の要請もしくは理事の過半数の請求により開催する。

二理事会は次の事項を審議し議決する。

(1) 会長の選出

(2) 第五条第2号に該当する会員の承認

(3) 総会の議決した事項の執行

(4) 総会に付議すべき事項

(5) 運営委員会より付議された事項

(6) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

《運営委員会》

第十四条 運営委員会は会長及び副会長、本会の事業を担当する理事で構成する。

二運営委員会は会長の招集によつて開催し、本会の日常の運営にあたる。

第十五条 第十二条第二項並びに第十三条第二項にかかわらず、緊急を要する事案は運営委員会において処理し、事後、理事会の承認を得るものとする。

◆ 第五章 事業及び議決 ◆

《事業の遂行》

第十六条 会長は、企画及び会誌の発行、会計、庶務等の副会長の担当を定め、かつ、これを補佐する理事を指名する。担当副会長は理事の協力を得て本会の事業を行う。

《事務取扱者》

第十七条 本会の事務を処理するため事務取扱者を置く。担当者は運営委員会委員の中より会長が委嘱する。

《議決》

第十八条 会員は総会において発言権、議決権を有する。

二総会、理事会の議決は出席者の過半数をもつて決する。可否同数の場合は議長が決める。

◆ 第六章 会計 ◆

《事業年度》

第十九条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

《事業計画及び収支予算》

第二十条 本会の事業計画書及び収支予算書は会長が作成し、総会の議決を得なければならない。ただし総会までの間は理事会の議決によることを妨げない。

《事業報告及び収支決算》

第二十一条 本会の事業報告書及び収支決算書は、会長が事業年度終了後遅滞なく作成し、監事の監査を経たうえ、総会の議決を得なければならない。

《会計》

第二十二条 本会の経費及び事業資金は次をもつて充当する。

(1) 入会金

(2) 会員の年会費

(3) 利息収入

(4) 寄付金品

二いったん納入した金品は一切返還しない。

第二十三条 会員は年会費を二口式千円として二口以上を毎年納付するものとする。

二卒業時の入会金は壹万円とする。

◆ 第七章 会則の改正 ◆

第二十四条 本会則は総会において出席会員の三分の二以上の賛成を経て改正することができる。

◆ 付則 ◆

本会則は平成十五年六月二十二日より施行する。
本改正会則は平成二十二年六月十九日より施行する。ただし第二十三条第一項については平成二十三年度より実施する。

以上

本郷学園同窓会会費納入者一覽

中3回 久保元吉

中6回 佐原雄次郎・堀江勇治

中7回 笹岡武徳・林繁之

中8回 石坂岩雄・鈴木貞夫

中9回 有賀活郎

中10回 久住進一・小泉進

中11回 市川雄一・木村善男・
黒川興文・高橋耕一・

塚田芳雄・中野武正

中12回 石原豊英・劔持行雄・
坂口甫・山田英彌・

吉田正吾

中13回 阿部敏一郎・石原清助・
石川正達・太田恭二・

景山正隆・小森為郎・

鈴木和男・橋正道・

中村允・山口一弘

中14回 柴崎甲子夫・藤井稔・

森本三郎

中15回 阿部敏秋・荻原久雄・
竹中節男・根本卓光・

野村秀二・宮本幸雄・

吉田正

中16回 河村旭・木村康夫・白井
明・田中凡夫・中野博・

野尻利祐・樋代幸雄・

鶴見俊一

中17回 阿出川昭治・按田仁三郎・

秋田禮一・乙部邦壽・

小川清・尾前広・

佐藤元徳・斉田貢一・

下村多気夫・高野正美・

立山文男・土屋二郎・

寺口有喜公・水田裕昭・

山口登・薮田幸一・蕨清平

中18回

新井義雄・新井保文・

青戸将・青木益嘉・

磯川清和・磯野泰夫・

今里隆・宇田川孝一・

榎本輔次・岡田光正・

大原功・大沢善和・

加藤宣夫・笠原栄治・

佐々木一昭・志田芳久・

清水正美・島田公雄・

杉原繁夫・菅野英夫・

鈴木卓三・妹尾尚・

高橋三郎・鳥飼義二・

西野重義・中山正・

仲摩邦夫・長谷川忠也・

服部定善・檜垣順次・

藤田弘治・松廣翠・

松田裕・武藤泰夫・

森正徳・山本昇・

矢部博康・渡部豊一・

渡辺信夫

中19回

阿出川義男・新井忠彦・

浅原義久・石井博夫・

板倉一典・太田健三・

大久保武司・大野勝弘・

貝塚明雄・柏原英一・

菊田勇・下川敬朗・

重永政夫・鈴木孝一・

玉川昭・高三郎・高橋實・

永井四郎・西村努・

- 野木惣市・長谷川広司・
保谷六郎・増田速水・
室久敏三郎・築尚・
横田文男
- 中22回
市川恒雄・西村和男・
大屋忠・大塚康夫・
倉田桂二郎・鈴木健之・
田島利男・鶴岡俊雄・
中島敬太郎・羽山健児・
橋本公成・久永幸隆・
皆川敬次・山下保次・
伊澤芳雄・市川保・
菊入喜三郎・鈴木三好・
藤原利彦・吉原信幸・
宮本良一
- 中21回
阿知波健・市橋光雄・
板倉厚・大下晃・
大矢和夫・柄澤喜市・
古門敏郎・小林國雄・
田中一好・外内悦雄・
中林商蔵・二宮重恒・
古澤秀信・横澤邦彦
- 高1回
相川厚・堀井幸次郎
- 高2回
小倉雅文・坂野重一・
桜井磯雄・櫻井泰・
稻田稔・清水真太郎・
瀬川澄男・豊嶋敬司・
中村嘉宏・西島成一・
羽生銚佑・浜野清隆・
宮入貞雄
- 高3回
石川達夫・石塚豊・
植松隆吉・遠藤巨良・
奥平博一・大部淳夫・
北見尹・志野原三津夫・
小浜卓司・佐々木三郎・
齊藤邦衛・坂田実・
地曳秀雄・長崎一・
根本強・野口多喜男・
平子浅雄・光安伸夫・
望月敏郎・山口洋司・
山内英夫・吉田孝光
- 高4回
八嶋政臣
- 高5回
井沢清・市村近・
梶野伸二・片桐幸一郎・
島崎雄司・宮坂貢司・
山崎利恭・影山弘
- 高6回
稲垣泰輔・池内春俊・
漆間秀雄・奥村茂・
- 高7回
秋元幹夫・青木輝男・
井島佳二郎・酒井征彦・
清水秀男・鈴木健・
高橋三郎・塚原正男・
平田満男・福原信夫・
益川雄治・宮崎靖司・
茂木進・山内周
- 高8回
稲葉研治・小野寺博・
大野俊広・尾島圭亮・
角能良宣・金子隆一・
木塚順夫・小室能広・
新澤米次・勅使河原宏記・
長澤秀幸・西田稜雄・
- 高1回
小椋一・小野耕一・
久保田義喜・蔵田尚・
駒井隆行・後藤順夫・
小林金則・佐瀬友貞・
篠喜三郎・霜越侖・
関貞三・高橋民次郎・
高木桂三・谷澤文雄・
津久田愛之助・中山壽夫・
中村義一・根立光夫・
松本易夫・松本幸司・
渡辺勝・渡辺昭義・
香森哲也・高橋利彰・
市川錦次郎・風間幹雄

高9回

深澤宏之・藤巻健三・
南谷修・山本賢一・
吉田光男・渡邊衛・
渡邊茂明・綿貫正壽
芥川定義・江原森太郎・
田辺博昭・川崎孝・
小林常甫・佐藤左武郎・
島村泰夫・田中好明・
西江正晴・比企正憲・
吉田穆

高10回

青木弘三・井上栄三郎・
泉澤賢一・岡本信也・
小川紘・亀井俊一・
上岡光男・上本清治・
小島友宏・斉藤功・
大門貞雄・田中秀明・
津原巖・中河秀行・
福住輝男・山崎昇・
八木橋実・渡部長幸・
佐々木範行・山崎尚
太田善夫・小池弘祐
高12回
阿久津二三男・市倉洋一・
飯田典幸・江原稔・
大梶勝英・亀井忠雄・
喜多雄三・木村尤一・

高13回

久保國男・熊木宏治・
高好俊一・竹村義教・
田部井勇・中川幸平・
中田和男・西野保博・
向井史朗・安形充利・
山本達雄・赤塚雅弘
阿出川信夫・相川清・
明石安邦・岡田勲・
岡本武勝・加毛隆・
方波見茂・坂本祥一・
斎藤毅・島村正雄・
杉本繁・高橋国夫・
田中幸雄・田中清弘・
中村久・野間口正機・
渡辺則綱・上田浩司
伊江朝睦・芦原健一・
池田雅彦

高15回

新安雄・櫻居義臣・
杉山雅一・杉山勝正・
高田隆義

高16回

上島敏幸・小原治男・
小池昭久・田村邦光
池田明・小野寺良雄・
佐藤仁・辻内健志・

高17回

高18回

中村憲夫・野田祐二・
馬場行男
浅井俊一・板倉日出男・
小倉義雄・神原康夫・
齐田与四郎・砂泊光彦・
神田茂夫・館野久雄・
田原克人・根木輝久・
宮沢正喜・三浦淳二・
山際幸雄・矢吹興平・
吉尾正照

高19回

秋葉和秀・下川薫・
中村博・沼尻卓・
長谷川実・増山恵一・
吉川昭二・吉倉幸信・
北原照久

高20回

飯沼誠次・内山正敏・
加田幹雄・梶徳治・
木島勝美・工藤一郎・
後藤文雄・小林基展・
斎藤盛泰・酒井完治・
酒井孝一・塩原一男・
瀬崎正憲・津田隆・
戸張友晴・中野正博・
堀部雅美・氷見隆・
蛭田要司・平塚孝・

- 高24回
石原涉・掛川敏行・
進藤久幸・田中良一・
寺田正美・野田悠二・
- 高23回
池野直樹・太田治・
田中功・飛田茂
- 高22回
赤井健郎・石井隆・
遠藤達哉・岡村光雄・
大恵淑行・加納耕助・
木下寛明・鈴木正治・
瀬賀春雄・染谷幸雄・
土井幸雄・若杉清和
- 高21回
安藤一雄・菊地正美・
黒杉寿博・砂田俊雄・
杉山敏行・杉山利博・
鈴木英世・鈴木斉・
外塚正博・谷口裕治・
月居潤・中田守喜・
野田優明・早川盛男・
小野寺清二・渡辺守
- 高25回
松島和己・前川定男
栗山孝治・佐野養・
坂井成一・田島秀行・
千野邦雄・中田宗喜・
長谷川幸雄・山口登・
吉田徳義・吉波行男
- 高26回
伊藤豊・稲田俊和・
飯田次雄・笹沼博之・
相模明男・柴安弘・
杉浦晶・立花英一・
立入健司・戸部庄次・
中田久人・庭野毅・
花島良晴・平野隆之・
堀義一・松平善明・
溝口清人・山本文夫
- 高27回
安部昌治・岩崎充晃・
佐藤吉伸・鈴木利一・
高橋伸治・原田俊幸・
畠山恒明・森田隆也
- 高28回
井口隆・黒沢邦夫・
小林博實・須崎幸彦・
須藤博忠・田中実・
松井伸彦・山本和弘
- 高29回
伊東史郎・磯ヶ谷満夫・
- 高30回
飯泉彰裕・小林幹生・
島幸男・菅野弘一・
丹野修辞・田中和男・
横山鉄夫
- 高31回
川崎雅弘
上荒敬司・宮本茂治・
- 高32回
石坪英貴・佐藤修一・
富永浩伸・厩溪文有・
橋本尚弘・山畑邦裕・
吉田法夫
- 高33回
小池治・斎藤政嗣・
竹内博輝・永堀義秀・
三井良文・三友宏樹・
山崎伸二
- 高34回
青木和夫・天沼嘉章・
井出尚・磯田浩之・
岩田実・宇賀神茂・
遠藤千秋・奥田十善・
小口邦夫・斎藤卓・
高橋秀明・滝本学・
中野一美・並木成中・
西洋一・福島浩・
吉田浩久
- 高30回
秋元康夫・小林晋一郎・

高35回

林俊明・日高裕明・宮崎雄一・渡辺欣也

高36回

藤本由紀夫・鈴木徹・佐々木央・平野治・山崎剛・茂呂孝元・本莊恭一・小池武次・戸張元・野口貴洋

高37回

桑谷信久・川端下徳之・美谷島総・清水克己・下鳥豊・山田晴一・若林宏幸・萩谷功・田邊賢一・松本圭一・大沢弘宣・酒井信之・鈴木貴生・直井正人

高38回

岸信行・久保一樹・佐藤公成・小松貴昭・小野寺和彦・大熊勝雄・根岸延存・小澤秀昭・安川清康・横川高樹・城和夫・前沢智敏・矢島俊之

高39回

清水伸樹・諸橋康博・矢嶋実・鹿倉康男・篠原史孝

高40回

金子純一郎・重川孝志・小掛慎太郎・小林俊明・紙谷淳一・増田茂・長田祐司・高瀬知博・井上貴行・福田秀朗・林慎也

高42回

花田憲彦・本井利生・水野哲行・三村淳悟・田村裕一・田村伸也・東尾隆之・吉川秀一・藤原潤一・大澤清・高山慎・藤田恵輔・石本健太郎・齋川俊行・塩家吹雪

高43回

萩原孝明・伊藤正規・松本祐一・戸塚太一・白田圭助・上原弘行・中田一郎・吉田永弘・中村歩希・今井仁・藤田清志

高44回

北村彰浩・久保村豊・相臺志浩・小林洋一・藤田啓・津田達広

高45回

赤田正樹・青木和久・笹川嘉一郎・中野隆之・中山秀一・近藤正徳

高46回

金子隆・鈴木健一・高木功介・山田洋一・岡崎進一・平岡真・砂泊光一郎

高47回

大森慎太郎・秀野泰隆・北原宏晃・香取範充・佐藤良・林幹大

高48回

山中弘毅・橋本直人・高橋克英・板橋寿和・稻生雄一郎・中村織雄・増田健次・芦原康夫

高49回

林誠吾・安井督・上野光信・近藤大介・山田元文

高50回

豊川浩成・及川勇介・宇田川太・新村光央

高51回

野村耕太郎

天野秀忠・梶野貴経・
佐藤英明・中村元氣・
滝澤一晴・中澤利幸・
橋爪雄志・乙丸貴史・
染谷快典・皆川裕司・
若西良介

高52回

塩畑太一・藤本耕平・
鈴木常太・千田昌宏・
坂本泰宏・坂田憲和・
猪越正直・馬渡千高・
伊田健一郎

高53回

北島康介・吉村和幸・
今井秀星・吉田朋大・
中井秀昌・福森洋輔・
奥山雄太・齊藤秀雄・
長南基・田中義人・
中村旭・日谷堯・
内原嘉昭・後藤泰治・
丸山大輔・深山敬大・
佐藤達哉・高波佑介

高54回

石澤慧・吉澤順一朗・
高橋祐磨・大澤思朗・
江間裕樹・大森秀昭・
辰巳裕紀・鶴木学・

高55回

小泉孝人・土橋篤仁・
堀越周・戸澤信太郎・
堀江翔一・和田敏治・
正木健彦

高56回

牧野恭平・新村佳央・
加藤誉幸・柴田皓亮・
山崎晃一・山下勇仁・
佐藤裕明・塚田匡・
秦武弘・國安徹

高57回

清水太朗・白坂健太・
高井俊宏・稲垣雄介・
殿川洋右・船渡川哲・
松田将吾・川田大助・
菅原一輝・小高真樹・
卯坂潤一郎・江利川堯・
後藤隆徳・澤山慶博・
長谷川裕之・細谷孝伸・
山本崇史・木内健義・
栗田直亮

高58回

池田貴生・清水敦啓・
鶴岡亮人・吉田峻洋・
谷口遼・安藤裕哉・
宮本英明・北森雅雄・
石村賢・宮川元・須長祐人
會澤陽司・松島和人・

高59回

木村匠吾・並木幹夫・
秋本悠樹・田中義輝・
西原正浩・木下和俊・
多田邦生・吉川直佑・
松村浩司・池田泰朗・
梅田翔太・宮沢祐太・
小笠貴嗣・黒田健斗・
土屋厚人・益田晃太

高60回

驚澤仁志・小泉隼人・
古賀大智・野中裕太郎・
水谷大志・山本勝章・
大野太郎・鈴木啓介・
森井康博・山下雄大・
木甲斐智明・佐藤智哉・
武井良祐・林輪太郎・
長谷川誠・南洋佑・
植田高啓・宇山宗孝・
小堀一・安部泰・
長田勝也・村川東・
大東雅・長谷川喜教・
吉貫大輔

大築一矢・佐藤明太・
豊原貴俊・永島透・
宮崎聡樹・由利卓哉・
稻生謙吾・高井航・
加藤明裕・鎌田健介・

高61回

工藤雄太郎・澁江佳樹・
 星野慎太郎・曾谷祐貴・
 吉田玲生・浅野泰寛・
 飯田大也・石井洋志・
 浦公佑・小池康介・
 鳥居暁・中村聡志・
 戸澤圭太・箱山智之・
 正木直哉・山幡琢也・
 熊谷智大・千田秀平・
 黒田直生人・佐々木佑輔・
 虎井祐介・吉田成輝・
 岩瀬良平・近田宗輔・
 佐藤明彦・植野寛人・
 宇津木純一・横井航平・
 今塚諒・小穴泰裕・
 大久保雄斗・河内達也・
 工藤貴文・高橋良平・
 福田圭祐・清水崇文・
 廣瀧翔太・町田修・
 内堀誠也・川野雄平・
 陣場成行・杉浦貴則・
 中村耕大・花村駿・
 森戸貴史・大倉智裕・
 加藤彰・新見拓馬・
 藤岡遼・元田圭・
 有馬弘晃・木下雄登・

高62回

志村暢紀・田中慎也・
 新田貴明・春山範光・
 前波知輝・村田貴輝・
 柳瀬和也・渡邊貴之・
 大崎駿一・大竹正紘・
 金子修・志田龍太郎・
 足立健斗・榎本悠一郎・
 柳裕介・矢部晋法・
 安藤雄太・伊藤健太・
 佐賀大凱・春原裕樹・
 林光太・南方宙大・
 渡辺学嗣・植田耕平・
 酒井翔生・篠崎一貴・
 田中想太・山田駿・
 五十嵐椋・大迫敬史・
 岡本遼・金晟徹・
 増田陽平・若林司・
 吾郷友紀・大澤亜希良・
 鈴木亨尚・平田雅俊・
 平野伎・青木俊樹・
 田口和昌・兵頭義章・
 宮島誠也・伊藤宏亮・
 小林祐樹・櫻井佑樹・
 櫻井雄太郎・福嶋大樹・
 厚美佑輔・木村旭・
 中沢舜・山田凌輔

高63回

細川尊裕・細野雅人・
 湯浅直貴・吉武哲・
 池田樹俊・石川岳・
 齊藤雄司・櫻井寛己・
 宿谷健太・白石拓馬・
 大塚桂樹・木塚康太・
 木原健裕・土屋雄飛・
 西岡玲・樋口晴哉・
 久場翔平・佐藤大雅・
 津内直人・岩淵毅宏・
 岡村優紀・根本拓実・
 星健介・品川尚久・
 渡辺英・秋山裕輔・
 小倉慎次・小林和貴・
 佐藤慎也・久松貴一

回期不明 スズキタカシ・スズキヤスシ・
 スズキノブヒサ・氏名無し

銀行振り込みも可能です。
 その際は会員番号(払込取扱票に印刷してある
 お名前の下の8桁の数字)か、氏名と卒年の
 どちらかを明記してください。

※万全を期したつもりですが、万が一、
 お名前の漏れや誤字、脱字などの間違いが
 ありましたらご容赦ください。
 FAXでご一報いただければ幸いです。
 FAX03-3917-0007



本郷祭(学園文化祭)を同窓生交流の場に

— 9月15日(土)、16日(日) —

《当日は同期会・クラス会・OB会などの集合場所にご利用ください》
同窓会展示室開設(当日のプログラムでご案内します)



同窓会懇親会開催

日時:9月16日14:00~16:00

会場:三菱養和会巣鴨スポーツセンター「レストランパルテール」

会費:2,000円

*展示室で利用券を受け取りご参集ください